雪の音

ゆき　おと

平成26年10月15日発行　Vol.122

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会　北陸支部

CONTENTS

目次

2014 October Vol.122

巻　頭　言…北陸新幹線など北陸の社会資本整備について
富山県 土木部長　林　　正　之 …… 1

特　　集…信濃川下流　三条防災ステーション
～平成16年7.13水害から10年　地域と連携した水防の取り組み～
北陸地方整備局　信濃川下流河川事務所 …… 2

随　　想…昨日　今日　明日　―人生の襞（カサネ）を　そっとつつんで―
中　田　千鶴子 …… 6

寄　稿　文…トキ野生復帰の経過について
環境省佐渡自然保護官事務所　広　野　行　男 …… 8

ちょっと気になるコーナー…「プチ贅沢　列車の旅」
中越トラベル（朝日交通㈱観光部）取締役支配人　山　崎　康　裕 …… 13

お 知 ら せ…ふるまち防災フェスタ
広報部会 …… 16

新潟県・新潟市総合防災訓練
災害対策部会 …… 18

社会貢献活動『白山外来植物除去作業』
石川事務所 …… 19

道路・トンネル技術講習会
技術部会　道路委員会、トンネル委員会 …… 21

建設コンサルタンツ協会　北陸支部 業務・研究発表会
技術部会　品質向上委員会 …… 25

河川研修会報告
技術部会　河川及び砂防委員会 …… 27

社会貢献活動「ふるさと美化大作戦」
富山事務所 …… 29

北陸支部防災訓練の結果
災害対策部会 …… 30

契約のあり方講習会
契約のあり方専門委員会（本部） …… 32

未来へつなぐ7.13水害10周年シンポジウム
広報部会 …… 33

支部活動報告　事務局 …… 35

会 員 名 簿
各部会・委員会委員名簿　事務局 …… 41

編 集 後 記　齋　藤　浩　幸

題　　字　元北陸地方建設局長
廣瀬　利雄　揮毫
表紙写真　冬待ちわびる会津の山
撮 影 地　福島県会津若松市
撮 影 者　猪俣　孝之

巻　頭　言

北陸新幹線など
北陸の社会資本整備について

富山県土木部長
林　　正　之

北陸新幹線の開業まで５ヶ月余りとなりました。富山県内では８月より新型車両による走行試験が始まっているほか、能越自動車道や国道８号入善黒部バイパス、県道黒部宇奈月線、高岡環状線、都市計画道路能町庄川線、あるいは富山駅付近連続立体交差事業などの新幹線駅へのアクセス道路や関連事業も急ピッチで整備が進められています。

新幹線の開業日が「来年３月14日」と先ごろ発表されましたが、ダイヤについても12月までには発表される見込みとなっており、開業がいよいよカウントダウンの段階に入ったことを強く実感できるようになってまいりました。

さて、６月に閣議決定された「国土強靭化基本計画」では、「日本海側も重視し多重性・代替性を高めるための日本海側と太平洋側の連携」が今後の推進方針に示されました。また、７月に公表された「国土のグランドデザイン2050」では、「日本海・太平洋２面活用型国土と圏域間対流の促進」が基本戦略の一つに定められました。このほかにも、「東京一極集中からの脱却」や「交通インフラの多重性・代替性」に関する記載が盛り込まれるなど、それぞれの計画とも30年以内の発生確率が70％程度とされている南海トラフ巨大地震や首都直下地震などの巨大災害の切迫を強く意識したものとなっています。

事実、東日本大震災では太平洋側や東北・関東間のネットワークに甚大な被害や交通制限等が生じ、日本海側の道路・鉄道・港湾等が救助・救援やその後の復旧活動等に全面的に活用されており、こうした日本海地域が果たした実績を踏まえると、防災面から日本の国を考えた場合、「多重性・代替性の確保」そして「日本海側の重要性の増大」は、自ずと導かれる方向性ではないかと思います。

また、日本海側を活用することの有意性は防災面だけでなく、経済活動の面からも指摘されています。「国土のグランドデザイン2050」には、「ユーラシアダイナミズムへの対応の観点からも、現在諸機能が集中している太平洋側だけでなく日本海側も重視した国土利用を行っていくことが必要である。（略）日本海側と太平洋側の２面をフル活用し、世界との結びつきを強化する。その際、航路としての日本海側の重要性を踏まえた港湾の活用を図る。（略）」とされています。

今回、日本海側の重要性が国の計画に示されたことで、北陸地方における新幹線や高速道路、港湾等の交通基盤整備が、防災・経済活動の両面から国全体の利益に適う事業であることを、多くの人が再認識したのではないかと思っています。

富山県では、「北陸新幹線の大阪までのフル規格による全線整備」、「東海北陸自動車道の全線４車線化整備」、「日本海側の総合的拠点港「伏木富山港」の機能強化」などを、国に対し強く要望しているところですが、今後はこれらの事業が富山県や北陸だけでなく、日本の国として重要であることをこれまで以上に強く訴えていく必要があると感じています。

公共事業の一翼を担う皆様にも、こうした意識をしっかり持っていただき、本県および北陸地域で行われる公共事業の重要性を広く発信していただければ大変ありがたいと考えています。

特集

信濃川下流　三条防災ステーション
～平成16年7.13水害から10年 地域と連携した水防の取り組み～

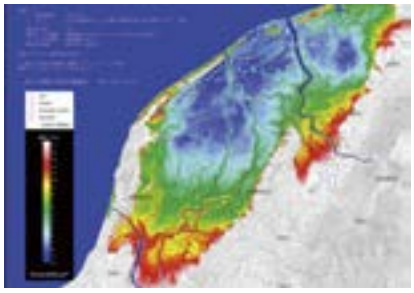
北陸地方整備局　信濃川下流河川事務所

１．はじめに

信濃川は、水源から河口までの延長367km の日本一の大河です。長野県、山梨県、埼玉県の県境にある甲武信ヶ岳（標高2,475m）が水源で、千曲川という名で長野県内を流れ、新潟県に入ると信濃川と名を変え、越後平野を潤し、日本海へと注いでいます。流域には約295万人の人々が暮らしており、河口部には本州日本海側最大の政令市、新潟市があります。

信濃川下流河川事務所は、大河津分水路分派点から河口までを管理しており、この間の延長は約60㎞で、下流域には流域内人口の47％約140万人の人々が暮らしています。

信濃川下流域は、後背地の標高が河川より低い地形で地方公共団体や土地改良区が管理する排水機場が多いこと、洪水時は新潟県が管理する刈谷田川や五十嵐川等の支川からの流量が多く、場合によっては本川の流れが逆流し、また、中ノ口川は上流で信濃川から分派し下流で信濃川に合流するなど複雑な水理の流域で、治水に関する関係者も多い。そういった中、平成10年８月、平成16年７月、平成23年７月と近年水害が多発しています。



越後平野標高段彩図

平成16年７月水害　五十嵐川の決壊

平成23年７月洪水での被害状況
（信濃川本川は平成16年洪水を受け約９割の堤防が完成していたが、平成23年７月出水で HWL を越える区間があった。）

そのため、流域の中で上流エリア、中流エリア、下流エリアがそれぞれ適切に役割分担しながら、地域全体の防災力を高めていく必要があるという認識が共有され、他の機関が取り組んでいる情報を入手し、関係各機関が連携を深めて、より地域の防災力を高めることが必要との認識が深まり、平成25年５月に流域の市町村、県、国の機関等で構成する「水害に強い信濃川下流域づくり推進協議会」も発足しています。

２．三条防災ステーションの整備

「河川防災ステーション」は、河川管理者と市町村が連携して整備する水防活動をはじめとした防災の拠点のことです。三条防災ステーションは、緊急時、平常時両方使える拠点として整備しました。

三条防災ステーションは、支川五十嵐川合流点の対岸信濃川左岸に整備した、信濃川下流域では２箇所目の河川防災ステーションで、主に信濃川下流域の上流区域の水防活動を支援する基地となります。信濃川の洪水被害を最小限に食い止めるために、迅速かつ円滑な水防・復旧活動を行う拠点として、三条市上須頃地区に今年５月18日に開所しました。

三条防災ステーションには、水防活動・緊急復旧活動を行う上で必要な土砂や根固めコンクリート等の資材を備蓄するとともに、ヘリポートや災害対策車輌等が配置されています。平常時には、防災学習や地域の交流・憩いの場として、また、河川を中心とした文化活動の拠点として利用されます。

３．地域と連携した水防の取り組み

三条防災ステーションと合わせて、三条市の川まちづくりの整備により、防災学習拠点、人々が集う交流・賑わいの拠点が出来ました。

三条防災ステーション内にある水防学習館は、三条市が大水害の教訓を後生に伝え、自分の命は自分で守ることの大切さを学んでもらうために整備しました。水害の記録や水害疑似体験など、子供から大人まで興味が持てる施設となっています。

◆防災ステーションを中心として、周辺の消防施設、小中学校との連携により、未来の防災リーダーを育成、地域防災力の向上を図るとともに、防災に関する自助・共助を育むための地域コミュニティの強化を支援

◆防災ステーションと周辺の文化・産業施設などとのネットワークにより、地域のコミュニティネットワークの促進を支援

◆河川交流広場等と一体的に整備することで、地域の歴史・文化を継承する拠点を創出

４．おわりに

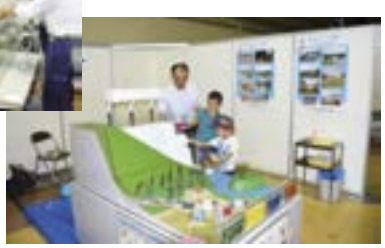
今年は、平成16年７月13日の新潟・福島豪雨水害から10年の節目のとなることから、「防災・減災 新潟プロジェクト2014」の一環で各種行事を行っています。

主な関連行事

５月18日　三条防災ステーション開所式
６月１日　親子で学ぶ防災見学会
６月22日　三条市・県・国合同洪水対応訓練
７月13日　7.13水害追悼式典（三条市）
　　水害10周年献花・黙祷式・講演会（長岡市）
８月24日　7.13水害10周年シンポジウム
10月18日　信濃川治水歴史めぐり

7.13水害10周年シンポジュームは、平成16年７月13日の水害を振り返り、さらにその後に発生した平成23年７月新潟・福島豪雨水害での経験を踏まえ、信濃川下流域における地域防災力のさらなる向上を目指し、未来へつなぐため、一人ひとりが何をすべきか、地域が何をすべきか等を考え、未来を担う子供達にもいろいろな体験を通じて学んでもらいました。

災害は、忘れた頃に突然とやってきます。過去の災害を後生に語り伝えることは難しいことです。この地域は、水害が起きやすいことを認識し、防災や減災のための備えと訓練をやり続けることがこの地に住まう上で必要なのだと言うことを大人が子供達に示すことが大切です。今回紹介した三条防災ステーションは、まさしくそのための施設となることが期待されています。



昨日　今日　明日　―人生の襞（カサネ）を　そっとつつんで―

中　田　千鶴子

自問　自答

或る年の新年早々、後期高齢の知らせがお役所から届く。明けゆく空に一年の目標を描いていた私の心に振り返る年代に突入したことを突き付けられた様な複雑な思いにつつまれる。戸籍上では年を重ねてきたことには違いないのだけれど、素直に受けとめることが出来ないでいた。あれから三年。ラジオ　テレビのニュースからは「オジイサン　オバアサン」「お年寄り」という言葉は消えて「男性　女性」という表現に変わっている。道なきレールづくりから始まった我がシングルライフも、いつの間にか50年の歳月が流れた。

人の一生というのは、無限な時間の中に漂っているに過ぎないことが脳裏をかすめる。自分の一生は小さな点に過ぎないと思うと、「後期高齢」なる文字は私の中から消えて行く。いつの日か身体が心を支配しはじめる日が訪れることは否めないが、重ねて来た歳月は尊い。『年を重ねることは老人になることではない』と言った人の言葉とともに、私は、『年齢は豊かな年輪』のようでありたいと希っている。

チョイスとチャレンジ

30代はじめ、より多くの知識や考え方を深めたいと思い立ち、四六時中、秒数と向き合う電波の世界から離れる。昭和48年からの二度目の東京生活は、第一次石油ショックの混とんとした世相の中にあって、東京には興味を誘う研究会が多く、中でも「山本安英ことばの勉強会」への参加はより多くのことを教えられた。劇作家、文芸評論家、俳優、演出家の一流の先生方を囲んでのディスカッション形式の会は、集会室の外の通路まで聴講生であふれる程の熱気振り。会費500円、月に一度の勉強会が楽しく、夜間でありながら世田谷から神田神保町まで通いつづけました。昭和24年10月に初演された木下順二作『夕鶴』のつうを、ガラスの様な澄んだ声で1037回演じつづけ、人々を魅了した人が神田生まれの山本安英さんでした。大正10年に女学校を卒業され、二代目市川左団次・小山内薫の現代養成所へ。『女の職業は女優しかなかったから』との理由でした。平成5年10月20日、天国へ召される。87才でした。ことばの勉強会での三冊の分厚いノートは、40年経た今も、貴重な資料として大切に保存している。

苦境に立たされ、厳しさを乗り越えて、自立の道を生きた女性たちが、いつの時代にも存在したことを忘れたくないと思う。

新しい　出会い

「人間の能力は車のバッテリーと同じだ」と言った人がいる。学んで放電するだけではあとがつづかない。常に充電を心がけることで新たな広がりの世界に出会う。東京では、音楽会・バレエリサイクル・ファッションショー・講演会の司会等を引き受けては下準備に充分な時間をかけて本番にのぞむ日々。仕事のない日は感覚を養うために劇場巡りや美術館へ足を運ぶことが多く、或る日偶然出会った「和紙絵（コラージュ）」が、私の人生模様を変えることになる。私の中の青写真には全くなかった和紙とのかかわり。趣味で楽しんでいた油絵は、絵の具の素材が和紙に代わる。和紙を染色

するのも面白くなり、時間を忘れて取りくむなど話す仕事の世界を遠ざけてしまう程に、のめり込んでしまったのです。

『絵画には正解はない』という言葉に背中を押され作品展も今年で40回を数える。21世紀に入って、台湾、パリのルーヴル美術館・ロシアのサンプトペテルブルグでの美術交流展へと、和紙絵が私を導いてくれました。和紙との出会いは、偶然ではなく、必然であったように思えてならない。今では、作品や素材が私の部屋をすっかり占領している。

環境

人は、人生に何度環境が変わるだろうか。全く変わらない人生を送っている人、いい環境、その逆の環境など、そこに溶け込むまで時間のかかる人、そうでない人、どうしてもその中に打ち溶けることの出来ないままで生きて行く人、逃げて別の世界へ走る人、いずれにしても、そこにまた新しい環境が待ちかまえている。それぞれの出会いの中で自分といかにかかわって行くか、生きて行く上でついてまわる課題である。

東京・富山を拠点に仕事で往復する生活がつづいていた昭和50年代はじめ、富山にも分譲マンションの建設が始まっていた。身体のこと、経済的負担など、先々のことを考え、銀行から融資を受けて、思いきって購入することを決める。大きな冒険でもあり喜びでもあった。四季を奏でる桜並木がつづく松川辺りに落ち着いて35年目を迎える。８年間の東京生活を最後に、両手の指がグーになる程、引越しをくりかえして来た。私には、珍しいことである。

時を繋ぐ（ツナ）

仕事が一段落すると、部屋のプチ模様替えや、整理・収納で気分転換をはかることが習慣となっている。

暮らしをシンプルにと、四年前、アトリエを引き払い、住まい兼用の生活に切り替えた。普段から、要・不要を区別して整理している積りが、いざ必要になった時、収納した場所が思い出せず時間がかかってしまう有様。古い情報の資料や、郵便物など、削除整理出来ないまま箱詰めにして、収納棚にギッシリ並べたまま。不要なものを取り除くには、結構、時間とエネルギーが必要となる。身体のエンジンのかかりも、年々遅くなって行く。ようやく作業にとりかかると、いつもの悪いクセが生じ、手にしては読みふける。処分出来ないまま、結局、しまいこんでしまう。生き方の指針をしっかり持たなければ、新しい風を入れる余地なしと思いながら、ふと、足元に落ちた紙片に目が止まる。放送局時代の取材メモのよう。

『ろくろにかけたら、土のなりたがっているように手を添えてやる』――端然とろくろを前に座る姿から発せられた越中瀬戸焼きの第一人者、陶芸家吉野香岳氏の言葉。器に寄せる深く優しいまなざし。赤茶けたメモ用紙から、とうに忘れていた若い時代の自分自身がよみがえる。今の時代より過ぎた時代が新鮮なものに思えて来る。

年を重ねて初めて分かることも少なくない。欲望の質も少しずつ変化して行く心模様に、いつからか、平穏な心が息づいていることに気付かされる。創造と創作の世界に夢を追い求めて生きて来た「夢追い人」でしかない私。信じた人の背信から、自立の道を選ばざるを得なかった時も、甘いと言われようが、女ひとり、なんとかがんばれば、成るように成ると、自分を見捨てず自分を信じて歩みつづけて来ることが出来た。挫折を経ての道づくりは、苦悩と葛藤の長い長いトンネルも決して楽ではなかったはずが、通り過ぎてみると、なつかしくさえ思えて来る。仕事が人との暖かい出会いを沢山持たせてくれた。生かされていることのありがたさを想う。

来春は、50年も待ちつづけて来た北陸新幹線が開通する。私の中にともりつづけるポテンシャルが、新たなブレークスルーを夢みている。人生のタイムアップは、まだまだ先のことでありたい。

満月が美しい夜―月見月の８日記―

プロフィール

中田千鶴子

1973年　民放ラジオ・テレビのアナウンサー、ディレクターを経て独立。東京、富山をベースに講演活動35年。ステージ・アナウンス活動。「言葉による人柄づくり」「北日本女性の集い20年」など執筆記事多数。昭和48年より和紙染色と花絵創作を開始。和紙花絵作家として、その普及・指導にあたる。
北日本新聞社カルチャーセンター講師。

寄稿文

トキ野生復帰の経過について

環境省佐渡自然保護官事務所　広野　行男

はじめに

佐渡で2008年にトキの第１回放鳥が行われてから、６年が経過したところです。その間、今年９月までに計11回、計177羽の放鳥を行い、今年の繁殖期には、放鳥トキから数えて孫の代にあたる、「３世」の新たな世代が誕生しました。野生復帰の当面の目標としてきた「2015年頃に佐渡島内に60羽定着」も、この６月に達成されました。

平成21年８月発行の本誌に「野生復帰の現状」としてご紹介した時は、第１回放鳥の後で、野生復帰がまさに動き始めた時期でした。現在、佐渡島内には、野生下で誕生したトキ約40羽を含めて概ね140羽を超えるトキが生存しています。今回は、その後５年余りの野生復帰の経過についてお伝えします。

トキの野生復帰の現状

○野生復帰に向けた動き

1999年に中国から天皇陛下に贈呈された１組のつがい、「友友（ヨウヨウ）」と「洋洋（ヤンヤン）」から同年５月に「優優（ユウユウ）」が誕生し、日本のトキ野生復帰の新たな道程は始まりました。翌年に「優優」の相手として、中国から「美美（メイメイ）」が供与され、国内でのトキの人工繁殖は軌道に乗っていきました。人工繁殖による個体数増加の目途がついたことにより、それらの個体を再導入することによる野生復帰が可能な状況となりました。そのことを受け、2003年３月に佐渡での「共生と循環の地域社会づくりモデル事業」として「環境再生ビジョン」を策定し、その中で「2015年頃、小佐渡東部に60羽のトキを定着させる」という当初の目標を掲げました。同時に、事業の元となるトキ保護増殖事業計画（「種の保存法」に基づく）を改訂し、佐渡島での再導入の実施が目標として位置づけられました。同じく2003年に署名された「日中共同トキ保護計画」を受け、放鳥個体の遺伝的多様性の確保を図る目的で、2007年に「華陽（ホアヤン）」と「溢水（イーシュイ）」の雌雄２羽が供与されました。現在も、その２羽を含めた中国から送られた５羽を始祖個体として飼育繁殖を進めています。

今年生まれの幼鳥

○トキの飼育繁殖

佐渡島のみでトキを飼育することは、環境変動や高病原性鳥インフルエンザが発生した場合、飼育個体群の存続へのリスクが大きいことから、2007年以降順次、多摩動物公園、いしかわ動物園、出雲市トキ分散飼育センター、長岡市トキ分散飼育センター等の協力のもと、島外４箇所の分散飼育地においても飼育繁殖が行われています。今年の繁殖期においては、合計30組のペアから61羽のヒナが誕生し、そのうちの54羽が生育しており、飼育下におけるトキの総個体数は220羽余りとなっています。

飼育下において、親鳥が産んだ卵を自ら温めヒナをふ化させることを自然ふ化、ふ化したヒナを親鳥が育

てることを自然育雛と呼んでいます。以前は、孵卵器等を用いて、より確実に繁殖個体数を確保できる人工繁殖が必要とされましたが、このところは、数自体を確保するよりも、放鳥後、野生下でペア形成率が高い傾向にある自然ふ化・自然育雛による自然繁殖個体をより多く確保する方針としています。

佐渡島内では、2013年３月末に飼育トキを間近に観察できる公開施設として、佐渡市が「トキふれあいプラザ」をオープンさせました。今年は、その公開施設の１組のペアから３羽のヒナが誕生し、全国からの愛称募集が行われるなど話題となりました。

現在も公開中のその３羽も含め、各分散飼育地で誕生した個体は、後の放鳥候補個体として佐渡トキ保護センターに移送されることになっており、飼育下のトキの個体数及び系統の管理、毎年の繁殖計画は、同センターが一元的に行っています。

また、供与された「美美」、「華陽」、「溢水」の３羽のトキと日本が所有するトキとの間に誕生したトキの半数は、中国に帰属することが両国の覚書により定められており、2002年以降、６回にわたり計43羽を中国へ返還しています。

○放鳥の実施

飼育下のトキが100羽近くまで増加した2007年４月、放鳥するトキの訓練を行う順化ケージを中心施設とした野生復帰ステーションが完成しました。飼育下にあるトキを放鳥するには、野生下での生存に必要な本来の能力を引き出すための訓練が必要になります。佐渡の実際の自然に近い環境で訓練をさせるため、順化ケージの内部はかつてのトキが餌場としていたような山間部の棚田環境を再現した造りになっています。幅50メートル、奥行き80メートルもあるその巨大なケージで、放鳥されるトキは、約３ヶ月の訓練期間を通じて、採餌能力、飛翔能力、群れ生活を通じた社会性、人や車へ対する慣れ、といった野生下での生存に必要な基本的能力や経験を身につけます。

第１回放鳥から第４回放鳥までの順化訓練は、訓練時期、期間や内容、一回当たりの訓練羽数、放鳥方法など、様々に試みられました。第３回放鳥の訓練時には、順化ケージ内にテン１頭が侵入し、訓練中のトキ９羽が死亡する事故が発生しました。その後、天敵対策を徹底して行うとともに、順化訓練の内容・技術も徐々に蓄積されたことで、放鳥方法もしだいに確立されてきました。第５回放鳥以降においては、訓練期間を約３ヶ月程度､放鳥時期を６月と９月の年２回とし、一度の訓練羽数を20羽程度とすることを基準として、各年の放鳥を行ってきています。

第１回放鳥から第３回放鳥にかけては、計10羽の個体が本州に渡る動きがみられ、中には、佐渡と本州を４往復した個体も確認されました。その後は、佐渡島内にしだいに群れが形成されたため、新たな放鳥個体もそこに合流する傾向が生まれました。現在では、放鳥されたトキのほとんどが島内にとどまり、野生下で誕生した約40羽を含めた約130羽が、いくつかの群れに分かれて生息しています。

2003年の「環境再生ビジョン」では、過去のトキの生息地であった佐渡島の小佐渡東部を野生復帰の目標エリアに想定していましたが、実際のトキの生息範囲は、小佐渡東部に限らず水田が広がる国仲平野等を中心とした平野部から山麓部に広がっています。その実態をふまえ、昨年２月に策定した目標達成のための工程表である「トキ野生復帰ロードマップ」においては、「小佐渡東部」を「小佐渡東部を含む佐渡島」と、現状に即した考え方に修正しています。

○モニタリング調査

放鳥後､野生下におけるトキの生息状況については、年間を通じてモニタリング調査を実施しています。調査で得られたデータをもとに、トキの生息数や生存率等を算出し、それを野生復帰の目標や方針を立てるための基礎情報として活用しています。データの積み重ねからは、例えば、放鳥トキの放鳥１年後の生存率は概ね６割であるのに対し、１年後から２年後のそれは９割近くに向上する傾向がみられる、などということが分かってきます。

個体を識別する方法としては、放鳥するトキの１羽ごとにカラーリング等の足環を脚部に取り付け、識別することを基本としています。また、一部の放鳥個体

これまでの放鳥結果（2014年9月末時点）

		第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第10回	第11回	計
放鳥開始日		2008 9.25	2009 9.29	2010 11.1	2011 3.10	2011 9.27	2012 6.8	2012 9.28	2013 6.7	2013 9.27	2014 6.6	2014 9.26	
所要日数(日)		1	5	6	4	2	3	4	4	3	1	3	
リリース方式		ハード	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	ソフト	
放鳥数（羽）		10	19	13	18	18	13	17	17	17	17	18	177
	オス	5	8	8	10	11	10	3	13	3	11	4	86
	メス	5	11	5	8	7	3	14	4	14	6	14	91
訓練期間(月)		7～14	0～8	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
生存率%	３ヶ月後	80.0	73.7	55.6※	66.7	88.9	92.3	52.9	100	88.2	100	(100)	80.6
	１年後	70.0	63.2	44.4※	66.7	77.8	61.5	41.5	94.1	64.7			62.3
	２年後	50.0	52.6	33.3※	61.1	77.8	61.5	23.5	-				52.9
	３年後	40.0	31.6	33.3※	55.6	77.8	-	-	-				50.0
	４年後	40.0	31.6	-	-	-	-	-	-				34.5
	５年後	40.0	31.6										34.5
	６年後	40.0											40.0
本州飛来(羽)		4	3	2	0	0	0	0	0	1	1	0	11

※ 第３回放鳥の生存率は放鳥時０歳の個体４羽を除いて計算

にはGPS送信器を装着し、人工衛星を用いた移動経路の追跡を行っています。野生下で誕生したヒナにも可能な限り足環を装着することとしていますが、ヒナがふ化してから巣立つまでの間のさらに限られた日齢期にしか装着作業を行えないことや、ヒナを一時捕獲するための現場の諸条件が必ずしも揃わないことなどから、今年の繁殖期においては、巣立った31羽の幼鳥のうち、およそ半数ほどにしか装着が実施できませんでした。

調査は、当省職員や新潟大学の研究者のほか、地域の市民ボランティアの協力を得て、一つのモニタリングチームをつくり実施しています。最近は、野生下のトキの個体数が徐々に増えてきているため、全ての個体の生息状況を日常的に確認することが困難になってきています。今後は、達成目標に対する進捗状況の把握や評価に不可欠となる情報を、いかに効率的に収集していけるかが重要だと考えています。

トキの目撃情報は一般の市民の方からもフリーダイヤルやインターネットを通じて随時寄せられる体制が確保されており、島内のモニタリングチームの目の届かない本州などでの目撃情報は特にありがたいものになっています。

○野生下のトキの繁殖状況

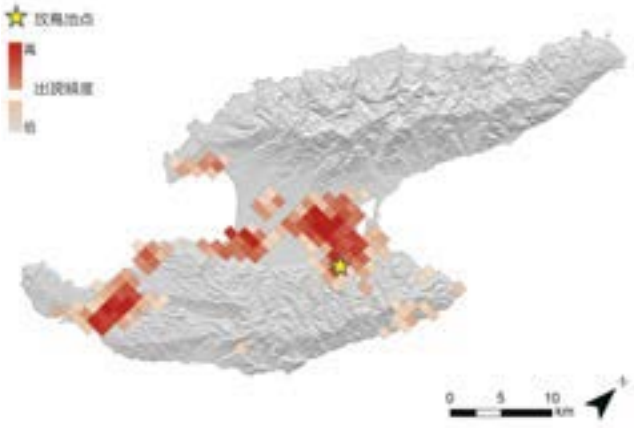
今年は、第１回放鳥の翌年2009年から数えて、６シーズン目となる繁殖期でした。2009年の繁殖期は放鳥されたメスがすべて本州に渡ったため、ペアは形成されませんでした。続く2010年、2011年は佐渡島内でペアの形成は実現しましたが、ふ化には至りませんでした。2012年を迎え待望のふ化・巣立ちが成功（計８羽）し、「36年ぶりのヒナ誕生」として全国的な大きなニュースになりました。昨年も計４羽が巣立ちし、今年で３年連続の巣立ち成功が実現したところです。

今年の繁殖期の注目点の一つは、2012年に巣立った７羽（昨年末に１羽が行方不明扱いとなったため、その時点での生存扱い数は７羽）が繁殖可能な年齢の２才となるため、そのペア形成がされるのかどうか、さらにそこからヒナ誕生がなるかどうか、という点でした。この７羽は個体を識別するための足環が着いておらず雌雄の別も分からないため、ペアとなった相手の識別によって、形成されたペア数や雌雄の区別をすることになります。これまで、その７羽のうち６羽（オス３羽とメス３羽）がそれぞれ別の放鳥個体とペアを形成し、抱卵する様子が確認されました。そのうちの２組のペアではヒナを誕生させ、先にテレビや新聞等で「放鳥トキ３世誕生」などと報道が行われました。放鳥されたトキを野生下での第１世代とし、その個体

同士のペアから2012年に生まれたトキを第２世代とすると、今回誕生したヒナが第３世代という位置づけになります。

「佐渡島内に60羽定着」の目標の考え方は、佐渡島内に60羽以上が１年以上生存していること、そして、その群れの中に野生下で繁殖した子孫が含まれていること、の２つを条件としています。今期の繁殖期において、野生下で誕生したトキが、２年余りに渡り自然界で生存し、ペアを形成し親となり、さらに次の世代を誕生させたことは、目指す野生復帰の姿に照らして一つの大きな前進だったと言えます。野生下で生まれたトキが世代をつなぎながら、群れが自然状態で安定的に維持されることになれば、目標としている野生復帰のかたちが実現されることになります。今期はその状態に向けて、確かな一歩を踏み出したといえます。

佐渡島におけるトキの生息域



野生復帰を支える生息環境づくり

野生下のトキが、群れを形成し継続的に繁殖を行い、定着するようになったのは、地域の関係者による農地・森林・河川等における様々な各取組を通じて、トキのエサ場、ねぐら、営巣林といったつながりを持った生息環境が一体的に確保されてきたことによります。

トキは、ドジョウ、カエル、貝類等の水生生物の他、ミミズや昆虫類を主なエサとし、エサ場やエサの種類は季節によって変化します。トキが野生下で安定的に生存していくためには、エサとなる多様な生きものが生息する水田や湿地、草地等の多様な環境が必要となります。

佐渡市では、放鳥を開始した2008年に、元々ある水田をトキのエサ場ともなる生きものが棲める水田環境にするため「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を立ち上げました。認証の要件は、水田脇への江（水路状の深み）やビオトープの設置、冬期湛水（ふゆみずたんぼ）の実施、水田魚道の設置のいずれかを「生きものを育む農法」として実施すること、農薬と化学肥料の使用を地域慣行比の５割に減らすこと、生きもの調査を年２回実施すること、等となっています。認証水田の取組は、2008年から現在にかけてほぼ毎年拡大し、佐渡島内の水稲作付面積約6,000ヘクタールのうち、およそ1,300ヘクタールに広がってきており、実際にトキは、他の水田と比べて認証水田をエサ場として比較的よく利用する傾向がみられます。

また、水田の稲が成長する夏期はおいては、トキは田面での採餌ができなくなるため、畦や農道脇の草地が重要なエサ場となります。佐渡では、畦等の管理に除草剤を使用せず、定期的に草刈りを行う習慣が根付いていることから、ドジョウ以外の重要なエサとなるミミズや昆虫類等の生きものが生息できる環境が確保されています。

同時に、ねぐらや休息に利用できる止まり木や林が、エサ場に隣接して、または、トキの生活する一定区域の中に確保されていることが必要となります。繁殖期においては営巣木・営巣林ともなる森林環境がトキの生息する地域内に存在していることが必要です。1981年に日本の野生トキが絶滅する以前に、佐渡で営巣木として利用されていたのは、山中のアカマツやナラ類が中心でした。一方で、昨今の野生復帰の取り組み以降は、人里に近いスギ林がその営巣場所の大半を占めるようになっています。営巣木は、場所や樹種の違いにかかわらず、いずれも巣材を架けるための横枝が張り出した大径木が選ばれる傾向にあります。併せて、営巣木の周りに、トキが巣に出入りするためのほど良い空間や隙間が存在することも重要な条件だと考えられています。近年では佐渡島内でも松枯れやナラ枯れが進み、一部では樹幹注入による対策も進められてきています。トキの定着を進めるうえでは、放置された

二次林の手入れや人工林における間伐等を行うことにより、トキの好むエサ場と一体となった森林環境を地域内で確保することが重要になります。

河川においても、新潟県を中心に、トキの野生復帰に向けた総合的な取組の一環として、河川の生物多様性を保全・再生を進めるための川づくり事業が行われてきています。対象となっている天王川等の河川では、三面張りの護岸を改良し、河道に変化をもたせ、池や湿地等を含んだ多様な水辺環境を新たに創出する自然再生の事業が進められているところです。

トキを見守る地域

佐渡における長年にわたるトキの保護活動は、環境省による保護増殖事業の開始以前から行われてきており、佐渡での野生復帰は、地域の方々のトキに対する"思い"により支えられているといえます。トキの野生復帰は、将来にわたりトキが地域の自然の中で安定的に定着して、初めて実現されるものです。そのためには、人とトキとの新たな共生関係を築いていくことが不可欠となります。

佐渡では、現在、４つの基本的な「共生ルール」（①やさしく静かに見守りましょう。②トキに餌づけをしないようにしましょう。③トキを観察するときは地域に迷惑をかけないようにしましょう。④繁殖期間は、トキの巣に近づかないようにしましょう。）が定められています。また、トキが実際に生息する地域を中心に、「トキとの共生座談会」を環境省、新潟県、佐渡市の共催で毎年開催してきています。野生復帰の現状を説明しながら、地域住民との意見交換を通じて、トキとの共生について合意形成を図りながら、トキを見守る地域社会づくりを継続的に進めてきているところです。

放鳥を継続し野生下のトキが徐々に増えるのに合わせて、トキに対する地域全体での理解が着実に進んできていると感じます。今年実現した、３世代目となるヒナ誕生は、トキが生きていける環境づくりに取り組んできたこととともに、トキを見守る地域づくりが進められてきたことの賜物だと思います。トキを見守り共生していこうとする意志や努力によりつくられてきた地域の社会環境は、トキの野生復帰を真に実現していくうえで、まさに欠かせないものといえます。

おわりに　－野生復帰の継続に向けて－

佐渡における野生復帰は、「佐渡島内に60羽定着」を達成し、一定の成果を上げつつありますが、トキ保護増殖事業計画における目標である「佐渡島において自然状態で安定的に存続できる」状態に照らすと、未だその途上にあります。トキは、今なお絶滅のおそれの高い希少な鳥類に変わりなく、これからも取組を継続していく必要があります。

トキの野生復帰は、トキを放鳥することによってのみ達成されるものではありません。放鳥されたトキが将来に渡って生きていける豊かな生息環境と、トキを見守る地域社会の支えがあって初めて実現できるものです。これまで佐渡で行われてきた取組の成果をしっかりとふまえながら、地域の方々との協働関係を維持し、これからまた「60羽定着」に代わる次の目標や野生復帰の進め方について、検討を進めようとしています。

絶滅を二度と繰り返さない本当の野生復帰が実現される日を目指し、地域に根差したトキの野生復帰の取組を、これからも一つ一つ進めていきたいと思います。

ちょっと気になるコーナー

「プチ贅沢　列車の旅」

中越トラベル（朝日交通㈱観光部）取締役支配人　山崎　康裕

【ご挨拶】

この度、中越交通㈱観光部と㈱新潟トラベル三条営業所が合併し、中越トラベル（朝日交通㈱観光部）として生まれ変わりました。

中越・下越地区のお客さんへのサービス向上と利便性を考え、私が兼務していた朝日交通㈱に観光部を新設致しました。私も観光部門専門に戻りました。今後とも変わらぬご愛顧を宜しくお願い申し上げます。

登録名：中越トラベル　　登記名：朝日交通㈱観光部

観光部住所：三条市北入蔵１－９－５（現在の住所と同じ）

連絡先：Tel 0256-391200　　Fax 0256-39-1211

＊既存の電話、ファックス、メールはしばらくの間併用致します。

【寝台特急廃止の予感】

上野駅から青森駅までを運行していた「あけぼの」が本年廃止となりました。鉄道ファンから惜しむ声が多く上がりました。「あけぼの」だけではなく、「北斗星（上野駅～札幌駅間）」、「カシオペア（上野駅～札幌間」、「トワイライトエキスプラス（大阪駅～札幌駅間）」の寝台特急も廃止される恐れがあります。太平洋側の路線は、東北新幹線と北海道新幹線がつながる2015年末を目安に廃止の検討が進んでいる様です。日本海側の路線である、「トワイライトエクスプレス」の廃止は良くわかりません。現在では、格安航空券・高速バス・安価なビジネスホテルなども増え、寝台列車を利用して高額な運賃・料金を払う必要性も少なくなって来ています。

廃止が決まれば、最後に乗車したい方が増え、人気が上がり予約が取れない状況になります。今の内に寝台特急の旅を楽しんで下さい。

【ななつ星】

予約が取れない列車と言えば､九州に２路線あります。

１つは、JR 九州のクルーズトレイン「ななつ星」です。報道などでご存知の方も多いと思われますが、簡単に概要をご説明致します。お客様の利用できる車両は、７両編成（先頭に動力車１両別）で５両が寝台個室車両（14部屋　デラックススイート２部屋、スイート12部屋）、でラウンジ車両１両とダイニング車両１両で編成されております。コースは､「１泊２日コース」と｢３泊４日コース｣の２コースが設定されております。

１泊２日コースは、九州北部の福岡、佐賀、長崎、熊本を二日間で周るコースで15万円程度からご準備されております（朝食１回昼食２回夕食１回付　２名様利用の１名様料金）。

３泊４日コースは、九州周遊で福岡、大分、宮崎、鹿児島、熊本を４日間で周るコースで２日目に霧島温泉での宿泊も組み込まれております。料金も宿泊ホテルのランクにもよりますが39万円程度からご準備されております（朝食３回昼食４回夕食３回付　２名様利用の１名様料金）

予約方法は、JR 九州のホームページから年間４回の受付時期に予約をする方法もありますが多数のお申込みがある場合は、抽選となります。また、旅行会社のツアーにお申込み頂く方法もあります。高めな国内旅行ですが一生の思い出になると思われます。

【観光列車　おれんじ食堂】

もう一つは、列車内での食事をメインに運行されている「観光列車　おれんじ食堂」です。鹿児島県の川内駅と熊本県の新八代駅間を「第三セクター肥薩おれんじ鉄道㈱」が運営している列車で、沿線の農作物や海産物を利用し、様々な料理で味わって頂けます。

基本的な運行日は、金曜、土曜、日曜、祭日となっておりますが冬休み期間やゴールデンウイーク、夏休み期間などは、ほぼ毎日運行しております。

《運行内容》

ダイニング車両利用　全席指定の23席限定

＊別にリビング車両１両が連結されております。全席指定の20席限定。乗車券と指定券で乗車可能ですが食事などは、付きません。

１号車 「BREAKFAST」　　大人10,000円

鹿児島県出水駅（08時52分）発　⇒　鹿児島県川内駅（10時30分）着

沿線で評判の店とコラボレーションして朝食を提供しております。（パン工房麦穂　さん）

肥薩おれんじ鉄道㈱様より（イメージ）

２号車 「SPECIAL」　　大人21,000円

鹿児島県川内駅（11時07分）発　⇒　熊本県新八代駅（14時55分）着

沿線のこだわり食材を利用して地元で人気の３店舗のシェフの協力で「スペシャルランチ」を作り上げました。鮮度や美味しい温度にこだわっております。前菜は、川内市で自家牧場も持つ「黒豚みかく亭さん」。メインの魚料理は、出水市の「農園レストラン三蔵（みくら）さん」が担当し、不知火海や長島ノ海峡産の魚介を利用し、旬の魚の旨みを味わって頂きます。肉料理は、水俣市の「鶴の屋さん」が担当し、「インボルチーニ」というイタリア料理を提供しております。

肥薩おれんじ鉄道㈱様より（イメージ）

３号車Ａ 「SWEETS」　　大人12,500円

熊本県新八代駅（15時25分）発　⇒　出水駅（17時04分）着

スイーツ担当は、「彦一本舗さん」で八代平野特産の「はちべえトマト」を利用した野菜スイーツがメインです。コーヒー、紅茶などの飲物も自由お飲み頂けます。地元の食材を利用した和洋約８種類のスイーツが用意されております。

肥薩おれんじ鉄道㈱様より（イメージ）

３号車　Ｂ 「SINFONIA」　　大人14,000円

熊本県新八代駅（15時25分）　⇒　出水駅（17時04分）

ディナーは、スペシャルランチも提供している「鶴の屋さん」のシェフが担当しております。「塩うに」のオー

ドブルから開始されるディナーは、メイン料理としてサフランライスの上に積み上がった具材のパエリア。熊本県天草産のムール貝や地元の旬の海老などの「海の幸」と鹿児島県八重高原産の黒豚のベーコンなどの「山の幸」をご堪能ください。「環境マイスター」の農家が作り上げた野菜は安心安全の地元産です。窓辺から夕陽を見ながらのディナーは格別です。

肥薩おれんじ鉄道㈱様より（イメージ）

３号車　A+B 「MEGUMI」　大人 21,000 円
出水駅（17：20）発　⇒　川内駅（18：51）着
熊本県新八代駅（15 時 25 分）　⇒　（17 時 04 分）出水駅（17 時 20 分）　⇒　川内駅（18 時 51 分）
出水駅で降車せずに「スイーツ」と「ディナー」両方を堪能できます。割引価格も魅力です。

　こちらの列車も客席数の関係で予約が難しいのですが「少人数の旅行」の素材の一つとお考えください。旅行会社のパッケージ旅行も便利です。

　安価に旅行が出来る時代になりましたが「贅沢な旅行」「プチ贅沢」なども増えて来ております。お時間を見つけて、お出かけになってください。

弊社社長が撮影

弊社社長撮影

弊社社長撮影（ランチ）

事務局からの

お知らせ

ふるまち防災フェスタ
～親子で楽しく防災力アップ！～

広報部会

１．はじめに

平成26年６月14日㈯、新潟市中央区古町通６・７番町（古町モール）において、「ふるまち防災フェスタ」（主催：新潟地震50周年事業実行委員会）が開催されました。

親子で楽しく防災力アップを目指すイベントとして、体験や展示を通じて、防災・減災について学ぶことを目的としています。

建コンの役割をパネルで展示

２．出展ブースの概要

我々、建設コンサルタンツ協会北陸支部は、「災害に備える」「自然とともに生きる」「快適で住みやすいまちづくり」「古くなった社会資本を活かす」「公共事業とは」など、私たちの街の課題と建設コンサルタントの仕事について、展示販売ゾーンにてパネルを展示しイベントに参加しました。また、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、石川県能登半島沖地震、新潟福島豪雨などの、災害事例をもとに復旧状況と建設コンサルタントの役割について紹介させていただきました。

災害復旧をわかりやすく解説

３．その他の出展団体

イベントエリアは、古町６・７番町（古町モール）で開催され、我々建設コンサルタンツ協会北陸支部が出展した、「展示・販売ゾーン」のほか、防災・減災新潟プロジェクト2014（北陸地方整備局）や地方気象台、地盤工学会等が出展の「環境ゾーン」総務省、新潟県警察、自衛隊、消防局、水道局、NTT が出展した「防災・安全ゾーン」「健康・生活ゾーン」など、親子で体験できるコーナーや飲食コーナーも併設されていました。

消防局が展示した水陸両用車両

消防局による AED の使い方

新潟県警察音楽隊 with カラーガード隊

消防士になれる！

白バイ隊にもなれる！

また、新潟市出身の小林幸子さんによる新潟地震当時の体験などのトークショーや新潟県警察音楽隊 with カラーガード隊による演奏、ゆるキャラとまちの防災を考えるコーナーなどもイベントに華をそえていました。

別会場では、新潟地震50周年シンポジウムや新潟地震パネル・映像展、親子防災セミナーがなどが開催されていました。

小林幸子さんのトークショー

４．おわりに

近年の震災や水害など、自然災害が多発していることで、お立ち寄りいただいた皆様の関心は高く、我々建設コンサルタントの役割を広く知っていただいた良い機会だったと感じています。

また、ご来場いただいた皆様からアンケートにご協力いただき、抽選で防災ゲームをプレゼントさせていただきました。親子でご来場いただいた方々も多く幅広い年齢層の方々から回答いただき、このイベントの趣旨である「親子で楽しく防災力アップ」に大きく貢献できました。

新潟県・新潟市総合防災訓練
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

災害対策部会

平成26年６月16日㈪午前９時　佐渡付近で、震源の深さ約10K、マグニチュード7.8と推定される地震が発生。

「新潟県・新潟市総合防災訓練」は、会場を新潟県教育センターで、県内各地域で建物倒壊やライフラインへの甚大な被害が発生と想定し、70機関・団体、総勢1500名で訓練を開始。

（災害対策本部　様子）

今年で３回目の総合防災訓練が､毎年行われてます。建コン北陸支部は今回から訓練に参加いたしました。今年は、新潟地震から50年の節目、新潟焼山噴火災害40年、中越地震10年及び7.13水害10年を迎えるメモリアルです。

それと､｢防災･減災新潟プロジェクト2014｣統一キャンペーン実行委員会を設置し、連携した広報活動を展開している。

建コン北陸支部は「情報収集・伝達」の訓練で、内容は災害対策本部からの土木施設被害状況調査の出動要請及び伝達訓練を行いました。

（災害対策本部　様子）

支部の要望で災害対策本部にリエゾンを派遣し、災害本部の情報等をいち早く支部に連絡し、支部内の体制を整えた。

訓練参加してみて、災害対策本部と建コン北陸支部間の情報伝達訓練として携帯電話による情報伝達を想定していたが、今回は初めての試みとしてタブレット等を活用した映像の伝達も行えたことから、今後、災害時における各種対応に活用したいと思います。

実際には、今回災害対策本部からの要請は行われなかった。来年度は出動要請を実際に受けた形での訓練をお願いして行きたい。

最後に建コン北陸支部としては、今後、外部の災害訓練等に積極的に参加して、情報共有を深めたい。

平成26年度　石川地区社会貢献活動『白山外来植物除去作業』

石川事務所

１．はじめに

当協会 CSR 活動の一環として、平成18年度（県単独では平成16年度）より続く、石川県白山自然保護センター・環白山保護利用管理協会主催の「白山国立公園外来植物除去作業」に今年も参加しました。

当日は、一般参加者も含め125名の参加があり、内当協会員は34名の参加でした。

開会式風景

２．白山国立公園について

白山国立公園は、富山県、石川県、福井県、岐阜県の４県と、白山国立公園を取り巻く白山市、南砺市、勝山市、大野市、郡上市、高山市、大野郡白川村の６市１村にまたがる標高2,702m の山で、富士山、立山と共に日本三名山（日本三霊山）の１つとされています。

また、白山は積雪量が多いため、高山植物の宝庫として知られる山頂部、広大なブナの原生林の広がりとそこに生息する多くの野生動物、深い谷間から山ろくにかけて数多く噴出する温泉群など、多くの魅力を持っています。

さらに昭和55年（1980年）には、保護・保全に加え自然と人間社会の共生にふさわしい場所とされる、ユネスコの「エコパーク」に指定されるなど、国際的にも高い評価を受けています。

３．白山における外来種の問題

しかし、近年、登山客の増加に伴い、外国原産の植物や低地性の植物等の、本来白山国立公園に生息していない植物（以下外来植物）の分布が拡大しているという問題が発生しています。

これを放置すると、元々生えている高山植物の生育を阻害してしまうだけでなく、近縁な高山植物と交雑し、雑種ができてしまうという危険性があります。実際に、DNA 解析により、外来のオオバコと在来のハクサンオオバコの雑種ができてしまっていることが明らかになっています。

４．外来植物の除去作業について

⑴　目的と内容（オオバコの除去作業）

外来植物の侵入を食い止めるための活動の一環として、登山口である市ノ瀬の駐車場周辺に生育するオオバコの除去作業が開催されています。

この除去作業を実施することにより、市ノ瀬の駐車場を利用する登山客の靴に種子が付着しないようにする目的があります。

除去方法については、白山自然保護センターの野上専門研究員が、イラストを混じえた資料で分かりやすくレクチャーされました。

除去方法としては、「根切り」という除草道具を用いて、オオバコの地上部のすぐ下にある生長点という部分を除去します。そこを切除すれば翌年芽を出すことがなく、根を掘り返さないので、山岳地において貴重な土壌の保全にも配慮しています。

作業風景（左下写真は除去道具の「根切」）

⑵　当日のスケジュール

当日は、下記のスケジュールで除去作業が行われました。

日時：平成26年６月22日
場所：市ノ瀬駐車場周辺（白山国立公園内）
〈タイムスケジュール〉
12時30分　受付開始
13時00分　挨拶、説明、除草作業
15時00分　休憩（オオバコ茶試飲）
15時15分　作業終了　挨拶

⑶　オオバコ茶の試飲

休憩時に、「オオバコ茶」の試飲が行われました。このお茶は、前もって市ノ瀬で除去されたオオバコを使って作られたものです。また、作り方のデモンストレーションも行われました。

オオバコ茶の作成風景

⑷　バイオトイレの設置

環白山保護利用協会の正会員である「中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社 金沢支店」様のご協力により「バイオトイレ」が設置されました。このバイオトイレは、水や電気を使わず、おがくずとバクテリアを使用して排泄物を分解し、無臭で環境に配慮したトイレです。今年度、石川県主要地方道白山公園線「白山百万貫岩」展望広場にも設置されました。

排泄物を分解した使用後のおがくずは、最終的に堆肥として有効利用することができます。

バイオトイレ（右下写真は内部）

⑸　全体を通じて

今回は、作業途中に天候が悪化したため、予定よりも早く作業を中止してしまいました。

結果としては、昨年の96.2kgよりも少ない58.9kgでしたが、それでも、参加された皆様は笑顔でお帰りになりました。

また今回は、白山商工会によるコーヒー「白山きりまんじゃろ」※1.のPR活動も催されました。

白山商工会による「白山キリマンジャロ」PR風景

最後に、この外来植物除去活動を通じて、白山の豊かな自然を守ることの大切さを学ぶことができました。また、多くの協会員がこの活動に参加することで、地域の皆様から信頼され、評価される協会を目指していきたいと感じました。協会員各位の更なる協力、参加を宜しくお願い致します。

※1.「白山きりまんじゃろ」は、１杯の代金から、白山とキリマンジャロの環境保全活動にそれぞれ５円（ご縁）が活用されるという、飲むだけで気軽に環境保全活動に参加でます。
　古くから暮らしを支える「水」として地域を潤してきた白山への感謝の気持ちを届けたいと、白山と、現地語で「白く輝く山」を意味するアフリカ大陸最高峰のキリマンジャロの、２つの「白山」のご縁から生まれたプロジェクトです。

平成26年度道路・トンネル技術講習会　参加報告
「道路構造物の延命化技術」「未来の道路」

技術部会　道路委員会、トンネル委員会

１．はじめに

協会員の幅広い知識の習得と、技術者の継続教育の一環として、平成26年７月25日（金）午後１時より、興和ビルにおいて「道路・トンネル技術講習会」が開催された。

２．講習会プログラム

第１部公演

道路構造物の延命化技術
～点検から補修・補強まで～
一般社団法人　日本建設業連合会
清水建設㈱　土木技術本部 基盤技術部
コンクリートグループ長
前田　敏也　氏

第２部公演

未来の道路～ＩＴＳ（高度道路交通システム）の研究開発の現状と将来～
国土交通省　国土技術政策総合研究所
道路交通研究部　高度道路交通システム研究室
主任研究官　松田　奈緒子　氏

３．講演会の内容

3.1　第１部：道路構造物の延命化技術
～点検から補修・補強まで～

⑴　コンクリート構造物の劣化

①中性化による劣化

壁高欄、ひび割れからのエフロレッセンス

②塩害による劣化

鉄筋露出及び断面欠損、融雪剤散布による地覆の劣化

③アルカリシリカ反応による劣化

防波堤、橋脚張出部

④凍害による劣化

橋脚、コンクリートに染み込んだ水が凍結・融解を繰り返してポップアウトしたコンクリート

⑤化学的浸食による劣化

下水管渠、下水処理施設

⑥疲労による劣化

道路橋の床板

⑦すり減りによる劣化

水路底部、堰堤越流部

⑵　点検・調査

①点検・調査技術の変遷

a）基準類

1980年代以降、各分野において点検に関する基準等が作成されたことにより、点検方法が明文化され、具体的な方法が明確となり、定期的な点検が促進された。このことにより、各施設の実態が把握され、適切なタイミングでの対策が可能となった。

b）変状確認

従来は目視や手作業による確認であったが、技術の進展により、非破壊試験や供用中の確認、作業の高速化が可能となり、点検・診断コストの低減や道路利用者への影響軽減の効果があった。

c）腐食確認

従来は目視や手作業による確認であったが、非破壊・微破壊による確認や将来予測、継続的なモニタリングが可能となり、コンクリート構造物を傷めずに腐食状況の把握や、適切な時期の予防的対策の施工が可能となった。

②点検・調査項目と手法

劣化状況：目視・簡易計測・打音

材料強度：強度試験・反撥硬度・超音波
鉄筋腐食：はつり・自然電位・分極抵抗
ひび割れ幅・深さ：コア抜き・超音波
中性化深さ：フェノールフタレイン等
塩化物の浸透：電位差滴定法・ボイル法等
かぶり：はつり・レーダー・電磁誘導・超音波
浮き・剥離・内部欠陥：コア抜き・打音・
赤外線・超音波・レーダー
その他：化学分析等

⑶ 補修・補強

①補修技術の変遷

1980年代以前はコンクリート劣化を抑制する表面保護の規準化がなされていなかったが、技術の進展により、各種劣化因子に対する表面保護材の開発や外観を損ねない表面含浸材の開発がなされ、表面保護の品質規格が確立、剥落防止材料・工法の開発による第三者被害防止などの効果があった。

②補修の種類と留意点

a）表面被覆の留意点

・劣化原因と要求性能の確認
・供用年数と耐用年数の確認
・劣化予測の不備（特に塩分の浸透予測）
・低温、高湿、水分、下地処理不良

b）ひび割れ補修の留意点

・ひび割れが開く可能性があるため、弾性系、可撓性材料を選定。【注入・充填】
・低温、高湿、水分【注入・充填】
・可使時間と注入深さ、早さ【注入】
・注入圧とシールの接着性【注入】
・注入時期【注入】

c）漏水補修の留意点

・適切な径、先端の処理【導水】
・収縮の小さい材料を選定【注入】
・注入圧とかぶりの確認【注入】

d）断面修復の留意点

・健全なコンクリートまではつる
・打継処理（濡らし、プライマー塗布等）を確実に実施
・上向きのグラウト注入はエア抜きを上まで設置
・湿潤養生（養生剤塗布等）

e）電気化学的工法の留意点

・通電試験により電極の仕様を決定【電気防食】
・充填モルタルを確実に充填【電気防食】
・定期的な（週１回）通電停止【脱塩】
・電解質溶液の飛散、漏洩防止【脱塩】
・実施前後の塩分量確認【脱塩】

③補強の種類と留意点

a）断面増加の留意点

・補強材と既設部材との一体化
・打継処理を確実に実施
・上向き注入による増厚はエア抜きを上まで設置
・ひび割れ対策、未充填対策
・湿潤養生

b）部材の追加の留意点

・新たに支持点となる上部の耐力チェック
・ジャッキアップ時の部材の変形、転倒防止
・追加する部材と既設部材との一体化

c）鋼板補強の留意点

・未充填対策、充填圧による変形対策
・鋼板の剥離
・腐食対策

d）繊維補強の留意点

・低温、高湿、水分、下地処理不良
・樹脂の含浸、脱泡を確実に実施
・硬化途中の水分によるアミンブラッシュ

e）プレストレス導入の留意点

・既設部材の耐力チェック
・既設部材へのアンカー削孔
・定着部コンクリートの打設、既設部材との一体化
・偏心の影響の少ないプレストレス導入計画

前田　敏也氏

⑷ 技術の紹介

①画像診断によるコンクリートの点検、劣化調査（HIVIDAS）
②高速削孔と計測データによる背面空洞調査（PVMシステム）

③炭素繊維シートによる補修・補強（HiPerCF 工法、CF アンカー工法）
④機械式継手による鋼板巻立て補強
（かみ合わせ鋼板巻立て工法）
⑤ボックスカルバート等の耐震補強（Ｔプレート工法）
⑥限定流入が可能な可塑状空洞充填材（アクアグラウド）

3.2　第２部：未来の道路～ＩＴＳ（高度道路交通システム）の研究開発の現状と将来～

⑴　社会に浸透するＩＴＳ

①ＩＴＳの推進

1995年８月に ITS 関係５省庁により、ITS における９つの開発分野が決定。（ナビゲーションシステムの高度化、自動料金収受システム、安全運転の支援、交通管理の最適化、道路管理の効率化、公共交通の支援、商用車の効率化、歩行者等の支援、緊急車両の運行支援）

以降、産官学・省庁が連携して ITS を推進。

②ＩＴＳの普及

a）カーナビの普及

カーナビの累計出荷台数は、2014年３月末現在約6,144万台。

カーナビは、高齢ドライバーの運転支援に貢献。

b）ＶＩＣＳの普及

VICS は、カーナビを通して渋滞や交通事故等のリアルタイム情報を提供するサービスであり、1996年４月に開始され、2014年３月末現在、累計出荷台数は約4,200万台を突破。

c）ＥＴＣの普及

全国の高速道路の平均 ETC 利用率は、2014年５月現在約89.8％。ETC 車載器の累計新規セットアップ台数は、2014年５月現在約4,600万台。

高速道路における渋滞の約３割は、料金所の容量不足に起因していたが、ETC の普及により料金所渋滞が緩和・解消。

⑶　実展開中のＩＴＳスポットサービス

①概要

・カーナビ、ETC が進化して一体化し、オールインワンで多様なサービスを実現。
・道路に設置された ITS スポットと自動車に搭載された対応カーナビが高速・大容量・双方向通信を行い、広域な道路交通情報や画像を提供。

松田　奈緒子氏

②特徴

a）ドライバーのメリット

・必要なときに必要な情報が得られる。
・進行方向約1,000km の渋滞・規制情報が得られる。

b）道路管理者のメリット

・ITS スポットをどこに設置しても情報提供できる。
・簡単に画像データを作れる。

③展開

・全国の高速道路本線上を中心として約1,600箇所に ITS スポットを整備。

④実現中のサービス

・2010年度冬から全国でサービス開始。

a）３つの基本サービス

１．ダイナミックルートガイダンス：
　広範囲の渋滞データで賢くルート選択
２．安全運転支援：
　ドライブ中のヒヤリを減らす事前の注意喚起
３．ETC（ETC2.0：経路情報を収集可能）

b）その他のサービス

情報接続：
　SA・PA、道の駅などでインターネット接続

⑷　次世代ＩＴＳに関する研究開発

①社会の将来像

・増大する高齢者のモビリティを確保できる社会
・官民における様々な業務の一層の効率化
・時や場所を選ばず個人向けのサービスが利用できる社会
・国際市場の拡大

②研究課題

「安全運転の支援」「交通流の円滑化」「環境の改善」「快適性の向上」「緊急時対応」「行政活動支援」「経済

活動支援」

③ ITS 研究室の重点分野

・路車協調システムを活用した高速道路上における交通円滑化・安全運転支援
・ITS スポット共通基盤を活用した産学官連携サービス
・大型車両走行状況のモニタリング手法による道路構造物管理
・多様なアプリケーションを共用する次世代の協調 ITS サービス
・欧米政府との共同研究

⑸ ＩＴＳ世界会議東京2013での研究成果の公表

・平成25年10月に９年ぶりに日本で開催された ITS 世界会議において、３つのショーケースを企画・運営。
　１．高速道路サグ部の交通円滑化サービス
　２．ITS スポットサービス
　３．ITS スポットと携帯電話網の連携による次世代サービス

４．おわりに

第１部の「道路構造物の延命化技術」の講演では、既設構造物に対する点検・調査→診断→対策（補修・補強）について、劣化状況に応じた点検・調査手法や補修・補強の技術について、写真や図表で分かりやすくご説明して頂き、大変勉強になりました。

第２部の「未来の道路」の講演では、約20年前から進められ、現在は欠かせないものとなった ITS の現状とこれからの取り組みについてご紹介頂き、ITS が円滑・安全な道路交通に重要な役割を担っていることを改めて認識できました。

また、現在高速道路上や道の駅での設置が先行している ITS スポットについて、平成26年度以降、一般道への設置が進められるとのお話しがありました。

最後に、大変貴重な講演をして頂いた講師の方に心から感謝し、この講習会で得たものを今後の業務に生かしていきたいと考えています。

平成26年度 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 業務・研究発表会

技術部会　品質向上委員会

１．開催の背景と目的

建設コンサルタンツ協会北陸支部業務・研究発表会は昨年、建設コンサルタンツ協会50周年記念事業の一環として開催されました。

建設コンサルタンツ協会北陸支部会員の業務における優れた成果や研究開発成果の発表を通じて、お互いの技術の研鑽を図ることを目的として継続的に開催することとなり、実施したものです。

２．開催概要

⑴．対象業務と専門技術分野

建設コンサルタント企業に属する技術者を対象として平成24,25年度に従事した建設コンサルタンツ協会北陸支部包括区域（新潟県・富山県・石川県）における国・地方自治体等に関する業務・研究としました。また、専門分野は「河川、砂防及び海岸･海洋」「道路」「都市計画及び地方計画」「地質」「土質及び基礎」「鋼構造及びコンクリート」「トンネル」「建設環境」の８部門としました。

⑵．選考方法

①．第１次審査

平成26年２月下旬から同年５月15日までの間で参加者を募集したところ23編の応募がありました。審査は北陸支部選考委員会にて新規性、市場性、論理性の観点から厳正なる審査を実施し、８編を選考しました。

②　北陸支部業務・研究発表会（第二次審査）

第１次審査で選考された８編を対象として「北陸支部 業務・研究発表会」を富山市の富山国際会場大手フォーラムにて開催しました。

（当日の参加総数110名）

発表会の様子

審査員は審査委員長として富山県立大学 伊藤准教授、後援をいただいた北陸地方整備局、富山県から各１名、北陸支部から支部長、技術部会長の計５名で審査を実施しました。

審査は論文､プレゼン等の観点から総合的に評価し、最優秀賞である支部長賞、奨励賞、審査員特別賞の３論文を選考しました。

第二次審査の様子

⑶. 大学との連携

本発表会は、富山市を会場としたことから富山県立大学、金沢大学を対象に学生講演を依頼しました。

両大学から学生を推薦していただき、業務・研究発表会で発表していただきました。

学生発表の様子（上から杉沢さん、佐橋さん）

また、審査委員長を務めて頂いた富山県立大学の伊東准教授からは審査だけでなく、基調講演も行っていただきました。

基調講演の様子

３．審査結果

表彰された３論文・発表者を示します。

・支部長賞（本部発表会推薦）

鋼連続合成ラーメン２主鈑桁橋への　コンパクト断面設計法および二重合成構造の適用検討

発表者　田嶋一介

大日本コンサルタント㈱

・奨励賞

砂防堰堤を活用した小水力発電事業への民間事業者としての取り組み

発表者　升方祐輔

㈱新日本コンサルタント

・審査員特別賞

北陸地方におけるまちなか・既成市街地再生のための総合的なノウハウ集　『北陸発まちなか再生のすすめ』

発表者　宮下昌之

㈱日本海コンサルタント

表彰式の様子

４．おわりに

業務・研究発表会開催にあたり、北陸地方整備局、富山県、関係大学の皆様、そして北陸支部会員会社から、ご多忙中にもかかわらず、多大なご理解とご協力を頂き、大変ありがとうございました。

来年度も開催する予定となっております。今後とも、皆様からのご協力賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。

平成26年度 河川研修会報告
- 堤防開削に伴う現場見学会（北陸地整との協同研修会）-

技術部会　河川及び砂防委員会

１．はじめに

本年度の研修会は、新潟県長岡市にて開催されました。実施内容は、柿川放水路排水樋門の新設に伴い堤防開削された現場の見学および長岡技術科学大学の大塚教授による堤防の安全性評価についての講演会です。参加者は総勢64名にのぼりました。

２．日程

本見学会の工程は以下の通りです。

８月19日
○14：00
信濃川河川事務所集合
○14：05～14：15
柿川放水路事業計画、長岡消流雪構造等説明
（バスで出発、見学現場へ移動）
○14：30～15：40
現場見学（太田川右岸0.2k）
・柿川放水路排水樋門新設工事説明　㈱福田組
・堤防土質説明　㈱興和
・堤防評価　大原技術㈱
（バスで出発、事務所へ移動）
○16：05～16：55
講演会
「地盤工学的視点による堤防の安全性評価を巡る話題と課題」
長岡技術科学大学 環境・建設系　大塚　悟教授
○16：55～17：10
意見交換会
（終了・解散）

３．見学地の概要

長岡市を流下する柿川は、平成23年７月の新潟・福島豪雨により､広範囲で浸水被害を引き起こしました。この水害を受け、新潟県では柿川を太田川へ放流する放水路の建設を行います。これに関連して、国土交通省 信濃川河川事務所では、放水路の合流点における樋門の施工、長岡市では下水道整備（雨水対策）事業に取り組み、３者が連携して家屋の浸水被害軽減に向けた対策を進めています（図 - １）。

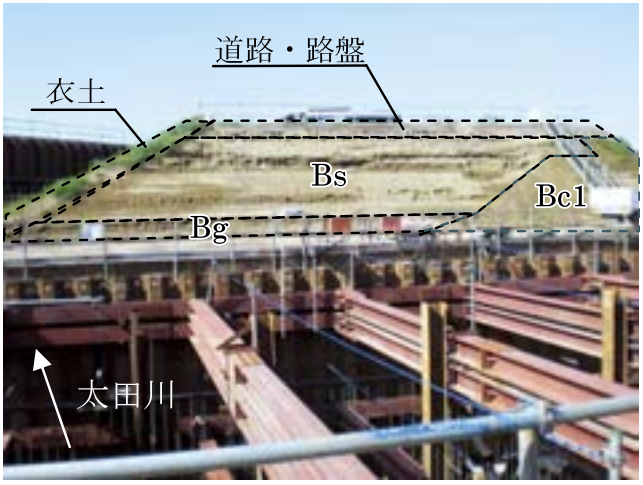
図 - １　事業位置図

信濃川河川事務所が実施する左近地区堤防強化対策事業では、H25～26年度の予定で、放水路合流点の排水樋門１基、築堤161m を施工する予定となっています。今回の堤防開削は、当樋門の新設に伴い実施されたものです。開削された堤防断面を見学し、堤防の土質構成、築堤施工履歴等について確認を行いました（写 - １）。

写 - 1　現場見学の様子

4．堤防の土質

開削された堤防断面は、上流側と下流側で類似した土質構成となっていました。具体的には、初期に粘性土で築堤されたBc1層、高水敷を礫質土で造成Bg層、その上位に砂質土で築堤したBs層、川表及び川裏を覆う衣土および堤防天端の路盤から構成されている様子を確認しました（写 - 2）。



写 - 2　堤防開削断面（下流側）

Bg層の川表側およびその下部に分布するAc1層では、アスファルトやコンクリート、木片等の建設廃材が確認されました。これらの建設廃材は、その分布範囲や別途実施されたボーリング調査結果、過去の空中写真から、旧砂利採取場の施設が残存したものであると推定されています。

堤防開削を行うと面的に土質を把握することができます。今回、一部の層で建設廃材の混入が確認されましたが、同一層の中でも廃材混入の度合いによって密実さに違いがあることが分かりました。堤防開削による堤防土質の面的評価を用いた堤防の安定計算結果により、精度の高い質的検討を行えることが分かりました。

5．講演会

現場見学後は、大塚教授（長岡技術科学大学）より、堤防の安全性評価について講演頂きました。主な内容は、以下のとおりです。①気象、地形、地質等に着目した新潟県における災害の特徴、②堤防の構造や破壊形態、③実際の破堤現場（例：刈谷田川中之島）の被災原因に関する検証結果。意見交換会では、広範囲における堤防の危険度把握方法や信濃川で過去に発生した洪水規模の把握方法等について議論が交わされました。

写 - 3　講演会の様子

6．おわりに

今年度の河川見学会は、堤防開削の現場という通常では容易に目にすることが叶わない堤防の断面を観察することができ、貴重な体験を得ることができました。

最後に、現場をご案内頂きました信濃川河川事務所の皆様ならびに関係者の皆様には大変お世話になりました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

「平成26年度　ふるさと美化大作戦」

富山事務所

８月24日、建設コンサルタンツ協会北陸支部の一員として、富山市主催の「平成26年度ふるさと富山美化大作戦」に参加しました。

当日、清掃活動の開始時間が午前７時と朝早く、曇り空で雨も降りそうな天気だったにもかかわらず、富山駅周辺に行くとたくさんの団体や個人のボランティアの方々が参加されていました。

私達は龍谷高校周辺の清掃活動を行うことになりました。学校の周辺かつ駅が近いという条件だったので、人通りが多くなりその分ゴミもたくさん落ちているだろうと思っていましたが、実際にはほとんどゴミが落ちておらず、拾ったごみより拾ったごみを入れるためのゴミ袋のほうが多くなってしまうのではないかと心配になってしまうほどでした。

清掃活動が終わりゴミを集めているのを見ていると、やはりゴミ袋がいっぱいになるほどゴミを拾ってきた方はいませんでした。この活動を通して地元の方々、高校へ通う生徒達がゴミを道に捨てないという意識をしっかり持っているということが感じることができました。

また、ゴミを拾っている時、すれ違う清掃活動参加者の方々に挨拶をするとみなさん笑顔で挨拶を返してくれました。普段道を歩いていて見知らぬ人に挨拶することはほとんどなかったのですが、相手が私たちと

同じ清掃活動参加者だと思うと、初対面の相手にも自然に挨拶することができました。同じ目的をもって活動していると、人と人との距離が縮まって声をかけやすくなりのだと気づき、こういった活動は街をきれいにするだけではなく、地域の人の結びつきを強くすることもできるのだということを学びました。

現在のゴミの少ない街があるのは、これまでの清掃活動と一人一人の街をきれいに保とうという意識の積み重ねの結果だと思います。来年の３月に北陸新幹線が開業になり、たくさんの人たちが富山を訪れるだろうと思いますが、その時に富山ってきれいなところだな、また来たいな、と思ってもらえるように、これからも毎年の清掃活動を継続し、日頃からゴミを捨てないという意識を忘れずに過ごしていくことが大切だと思いました。

北陸支部防災訓練の結果
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

災害対策部会

北陸支部では、下記のとおり防災訓練を実施しました。

１．北陸支部防災訓練の実施日時

平成26年９月１日㈪　8：00～12：00

２．参加者（新潟地区）

寺本支部長、小野塚副支部長、高田運営委員長、青木総括部会長、佐藤委員、西潟委員、間瀬委員、高野委員、髙橋技術総括責任者、木村副責任者

他、富山地区、石川地区でも実施

３．地震の規模など

午前８時、新潟県南西沖でM7.7の地震発生。最大震度は６強が上越市、５強が新潟市、黒部市、珠洲市などで観測。

４．北陸支部防災訓練の様子と流れ

参集する段階から訓練を実施した新潟地区での様子と流れを以下に示す。

⑴　訓練の様子

災害対策現地本部設置に関す協議の様子

⑵　訓練の流れ

実際の取り組み内容と時間を以下に示す。

８：00　新潟県南西沖でM7.7の地震発生
↓
８：40　技術総括指揮者・総括部会長が分担して関係者に参集連絡を行う
↓
９：15　北陸支部にて「災害対策 北陸 現地本部」を設置
↓
９：17　災害対策現地本部設置のお知らせと被災調査対応依頼の可否についてFAXとメールにて報告・確認案内をスタート
↓
９：25　新潟地区関係会社41社へのメール送信終了
↓
９：32　最初の返信回答をFAXにて受信
↓
10：17　発信１時間経過時である当該時点で26社からの回答をFAXにて受信
↓
10：20　新潟地区関係会社41社へのFAX送信終了
↓
11：20　送信後１時間（41社全てから回答をFAXにて受信）
↓　　支部訓練結果等の確認・打ち合わせ
12：00　北陸支部の訓練終了

５．訓練結果について

今年度の北陸支部防災訓練は、新潟地区を中心に初動時の情報伝達訓練を実施した。新潟地区では「災害対策 北陸 現地本部」設置を協議するために関係者が参集する段階から訓練を実施した。

今年度の防災訓練は、北陸支部全体として概ね良い結果が得られた。以下に主な結果を整理する。

１）災害対策現地本部の設置に関する協議を予定時間よりも早くにスタートできた

新潟地区では関係者が参集する段階から訓練を実施した。結果、関係者が早めに集まったことから予定した協議開始時刻よりも早めに開催（９：30スタートが９：15スタートに）することかが出来た。

これは、連絡を受けてからの速やかな行動など、迅速な対応がこのような好結果に繋がったものと思われ、大きな成果であったと考える。

２）派遣依頼に関する回答結果は北陸支部全体で100%（昨年度は92%）

確認方法はFAXによる返信を原則として実施した。回答率は、今年度は所定時間（FAX送信後１時間以内）とそれを越えた時間（２時間以内）の２種類で確認した。

その結果、昨年度は支部全体で92%であったが、今年度は所定時間である１時間以内回答は95%、２時間以内で100%の回答となり、昨年度を上回る良い結果であった。

３）平成25年度訓練での課題解決を図った取り組みを実施し、その効果を確認することが出来た

ａ　連絡書面のワンペーパー化による対応時間の短縮

災害対策現地本部設置のお知らせと派遣依頼の対応可否確認に関する案内について「ワンペーパーによる書面の簡略化」を実施した。これは、２種類のFAX送信書を１枚に集約化したもので、結果、FAX送信時間が昨年度に比べて約１時間短縮できた。

ｂ　連絡ツールの複数化による早期確認

今回の訓練では、初めて電子メールによる連絡を加えた。実施にあたっては、単に通信環境が整った場所で電子メールを操作するのではなく、通信設備が完全ではない場合にも備えてモバイルＰＣにより電子メールを発信した。

結果、「FAXだけでなく電子メールの併用」を実施したことにより、FAX送信している最中ではあるものの、まだFAXを送っていない会社から回答が届く（電子メール送信15分後）など、早い時間で確認を得ることができた。

FAXによる送受信の様子

６．今後の主な課題

平成25年度の課題の未対策事項や今年度の訓練結果を踏まえ、今後の主な課題を以下に示す。

１）北陸支部会員会社窓口の多重化（各社２名配置）
２）ワンペーパー化に伴った分かりやすい記載への変更
３）施設管理者の管内図を毎年更新して最新版をストックする
４）モバイル環境の構築、タブレット端末等の活用を視野に入れる

契約のあり方講習会
―土木設計契約の問題点―

契約のあり方専門委員会（本部）

１．はじめに

協会本部の契約のあり方専門委員会では、建設コンサルタント業務における契約の重要性に関する理解を深めるため、本部専門員会及び外部講師をお迎えし本部講習会を北陸支部として共催いたしました。

日時：平成26年９月９日㈫　14：00～16：00
主催：（一社）建設コンサルタンツ協会
　　契約のあり方専門委員会
共催：（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部
場所：興和ビル10階　会議室にて

講演会状況

第一部　契約のあり方に関する課題

当協会の契約のあり方専門委員会の活動報告として、講習会の開催状況、建設コンサルタント賠償責任保険に関する事例、詳細設計における契約約款と運用実態などを説明いただきました。
さらに建設コンサルタント契約の経緯や約款の法的性格や課題などを講演いただきました。

第二部　土木設計契約の問題点

弁護士の大森文彦講師をお迎えして、土木設計契約の問題点と題して講演いただきました。

大森講師による講演

－大森講師の略歴－
1974　東京大学工学部建築学科卒業
～1980　建設会社勤務
1987　最高裁判所司法修習終了、弁護士登録
現在　弁護士、東洋大学法学部教授
　　一級建築士

大森講師からは、建設コンサルタントの実務について具体的な事例をもとに、実務上の法的諸問題について講演がありました。さらに契約のルールや契約の基本構造、契約上のトラブルや解決方法などについて、わかりやすく講演いただきました。講演の後には質疑の時間が設けられ、出席者からは現場での実体験に基づく質問があり、的確なアドバイスをいただきました。

未来へつなぐ7.13水害10周年シンポジウム
見て遊んで体験しながら防災を学ぼう

広報部会

１．はじめに

平成26年8月24日（日）燕三条市地場産業振興センターメッセピアにおいて、「未来へつなぐ　7.13水害10周年シンポジウム」（主催：水害に強い信濃川下流域づくり推進協議会）が開催されました。

平成16年7月13日に発生した平成16年新潟・福島豪雨による水害から10年を迎え、当時の被害とその後の歩みを再認識し、災害から得られた教訓を生かすことをテーマにシンポジウムの開催、併設する展示ブースで子供達にも楽しめるコーナー、防災体験ブース、展示ブースが設置されました。

建コンの役割をパネルで展示

２．防災体験・展示ブースの概要

我々、建設コンサルタンツ協会北陸支部は、「みんなのくらしを守る！！」「地震や洪水が起こるとすぐ出動！！」「くらしをささえる公共事業」など、私たちの町の課題と建設コンサルタントの仕事についてパネルを展示しイベントに参加しました。

子供達も集まってくれました

会場では、防災迷路、水路模型で遊ぼう、降雨体験、AED 講習会、自衛隊制服写真撮影（子供用）、災害対応用ロボットデモンストレーション、田んぼダム模型展示、災害時に活躍する車両展示（自衛隊）、災害時物資供給の紹介、空中撮影用ラジコンヘリコプター展示と盛りだくさん、子供達は見て遊んで体験しながら防災を学んでいました。

水路模型で遊ぼう

自衛隊制服で撮影

出展団体として、新潟日報社、新潟大学農学部、新潟工科大学、長岡技術大学、防衛省自衛隊新潟地方協力本部、新潟地方気象台、NPO 法人コメリ災害対策センター、日本赤十字新潟県支部、（一社）新潟県地質調査業協会、(一社）新潟県測量設計業協会、(一社）新潟県建設業協会三条支部、SPF(sky photo factory)、㈱野村防災と盛りだくさんの出展でありました。

３．シンポジウム

シンポジウムでは、映像放送「水害を振り返る」、片田敏孝教授（群馬大学大学院教授）による基調講演「災害を教訓に生かすということ」、パネリスト　篠田昭（新潟市長)、國定勇人（三条市長)、久住時男（見附市長)、李仁鉄（特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長)、高橋猛（新潟県土木部長)、瀬崎智之（国土交通省信濃川下流河川事務所長)、コーディネーター片田敏孝教授によるパネルディスカッション「7.13水害後の自助・共助・公助の進歩と今後進めるべきこと」が開催されました。

防災迷路体験

ダム操作体験

新潟日報社による　平成16年7.13水害、
平成21年7.29、水害写真パネル

４．おわりに

7.13水害10周年シンポジウムに出展させていただきましたことは、我々建設コンサルタントの役割を、お立ち寄りいただいた皆様に広く知っていただいた良い機会だったと感じています。また、ご来場いただきました皆様からアンケートにご協力いただきました、大変ありがとうございました。

北陸支部活動報告

平成26年４月10日

北陸支部会計監査受検

場　所／北陸支部会議室

実施者／支部監事　山本　宏司、高堂　景寿

立会者／運営委員長　高田　一博

平成26年４月10日

平成26年度第１回役員会

場　所／興和ビル会議室

議　事／平成26年度監査報告

第32回北陸支部定時総会議案について　他

平成26年４月17日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第１回幹事会

場　所／国土交通省北陸技術事務所

出席者／横山技術部会長

平成26年４月21日

建コン PR 冊子配布

場　所／石川県立大学

対応者／平岸委員

平成26年４月23日

建コン PR 冊子配布

場　所／石川高専

対応者／平岸委員

平成26年４月24日

平成26年度　北陸支部定時総会

場　所／新潟市内

総　会／平成25年度事業報告（案）

平成25年度決算（案）

監査報告

平成26年度事業計画（案）

平成26年度予算（案）

講演会／演題　「高速道路をめぐる最近の諸情勢について」

講師　国土交通省道路局高速道路課長

中神　陽一氏

平成26年５月７日

支部部会長会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度事業計画等について

平成26年５月９日

技術部会道路委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度事業計画について

平成26年５月12日

広報部会会誌委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／会誌「雪の音」、会員名簿の原稿確認について

平成26年５月12日

広報部会広報委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度事業計画等について

平成26年５月14日

平成26年度建設技術報告会第１回実行委員会

場　所／新潟国道事務所

議　事／平成26年度実施計画等について

出席者／佐々木広報委員長

平成26年５月16日

技術部会委員長会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度事業計画等について

平成26年５月21日

学生説明会

場　所／石川高専

対応者／平岸委員

平成26年５月21日

講師派遣

派遣先／（一財）新潟県建設技術センター

派遣数／２名

内　容／初任者技術研修

平成26年５月21日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第２回幹事会

場　所／長岡科学技術大学

出席者／横山技術部会長

平成26年５月22日

総括部会会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度事業計画等について

平成26年５月22日

災害対策部会会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／災害対策北陸現地本部等設置要領等について

平成26年５月28日

平成26年度砂防学会定時総会並びに研究発表会

「新潟大会」（実行委員会）

場　所／新潟市内

出席者／寺本支部長

平成26年５月29日

学生説明会

場　所／金沢工業大学環境土木工学科　３年　40名

対応者／今度委員、藤本委員

平成26年５月29日

建コン PR 冊子配布

場　所／新潟大学キャリアセンター

対応者／小見都市計画委員長

平成26年６月５日

品質向上委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度事業計画及び業務・研究発表会について

平成26年６月13日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第３回幹事会

場　所／新潟国道事務所

出席者／横山技術部会長

平成26年６月13日

広報部会会誌委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／会誌「雪の音」、平成26年度会員名簿の配布等について

平成26年６月14日

ふるまち防災フェスタ出展

場　所／新潟市内

内　容／パネル出展

平成26年６月16日

新潟県新潟市総合防災訓練

場　所／北陸支部会議室

内　容／防災訓練本部と支部事務局との情報伝達訓練実施

平成26年６月19日

技術部会建設環境委員会

場　所／富山市内

内　容／平成26年度事業計画等について

平成26年６月20日

平成26年度「北陸の建設技術」第１回編集委員会

場　所／高田河川国道事務所

議　事／平成26度活動計画等について

出席者／会誌編集委員会委員　　齋藤　浩幸

平成26年６月22日

石川事務所社会貢献活動

白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬一斉防除

場　所／白山国立公園

内　容／外来植物除去作業

参加者／34名

平成26年６月23日・24日

講師派遣

派遣先／新潟県土木部

派遣数／１名

内　容／橋梁の維持管理Ⅰ

平成26年６月26日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会

平成26年度第１回協議会

場　所／新潟国道事務所

出席者／寺本支部長、横山技術部会長

平成26年６月26日

国総研・土研と本部との意見交換会

場　所／協会本部

出席者／渡辺橋梁委員長、首藤道路委員

平成26年６月27日

総括部会会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度事業計画等について

平成26年６月30日

平成26年度第２回役員会

場　所／新潟市内

議　事／協会本部定例運営会議等報告　他

平成26年６月30日

本部と北陸地方整備局等との意見交換会

場　所／新潟市内

出席者／北陸地方整備局　野田局長他10名
新潟県　佐野技監他１名
富山県　江幡建設技術企画課主幹
石川県　寺西技術管理室課長補佐
新潟市　青木都市政策部技術管理センター長他１名
本　部　大島会長他12名、北陸支部　寺本支部長他22名

平成26年７月８日

平成26年度　マネジメントセミナー（本部主催）

場　所／新潟市内

講　師／本部担当委員会委員

内　容／建設コンサルタントとマネジメント
ＰＦＩ事業の今後の展望と建設コンサルタントの役割
ＣＭ業務の普及に向けて
建設コンサルタントが取り組む生物多様性の保全と低炭素化
効果的なマネジメントシステムの運用
品質の確保・向上に向けて

参加者／国６名、県１名、政令市２名、会員86名　計95名

平成26年７月22日

平成26年度防災エキスパート講習会（後援）

場　所／新潟市内

内　容／「にいがた地形防災学
－過去からの地図を重ねてみれば－」
講師　奈良間　千之氏
（新潟大学理学部准教授）
「時速200㎞の救急治療室
－新潟県ドクターヘリの紹介－」
講師　遠藤　　裕氏
（新潟大学大学院歯学総合研究科救命救急分野教授）

平成26年７月24日

インフラ再生技術者育成新潟地域協議会第４回幹事会

場　所／長岡技術科学大学

出席者／横山技術部会長

平成26年７月25日

道路・トンネル技術講習会

場　所／新潟市内

内　容／「道路構造物の延命化技術～点検から補修・補強まで～」
講師　一般社団法人　日本建設業連合会
清水建設㈱土木技術本部　基盤技術部
コンクリートグループ長　前田　敏也氏
「未来の道路交通～ＩＴＳ（高度道路交通システム）の研究開発の現状と将来～」
講師　国土交通省　国土技術政策総合研究所
道路交通研究部高度道路交通システム研究室
主任研究官　　松田　奈緒子氏

出席者／　　63名

平成26年７月25日

出前講演（立山女性サロンの会）

場　所／富山市内

講　演／「常願寺川の防災対策」
講師　吉川　知弘氏

平成26年７月30日

総括部会災害対策部会合同会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度の災害対策等について

平成26年７月30日

支部部会長会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度の活動方針について

平成26年８月６日

学生説明会

場　所／金沢大学

対応者／今度委員、麻田委員

平成26年８月７日

新潟地域委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／意見交換会等について

平成26年８月８日

建設コンサルタンツ協会北陸支部主催　業務・研究発表会

場　所／富山市内

内　容／基調講演

演題「コンクリート構造の不具合に向き合って」

講師　富山県立大学工学部

環境工学科　伊藤　　始氏

業務・研究発表　８編

学生講演　　２編

参加者／110名

平成26年８月８日

ＧＩＳ講習会（協会本部主催）

場　所／新潟職業能力開発短期大学校

内　容／ＳＩＳ初級編

参加者／13名

平成26年８月18日

第10回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／新潟市内

内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師　北陸地方整備局　企画部

地方事業評価管理官　大石　　登氏

演題「東日本大震災からの教訓と今後の備え」

講師　（一社）東北地域づくり協会

地域事業部長　山内　芳朗氏

参加者／175名

平成26年８月19日

第10回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／長野市内

内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師　北陸地方整備局　企画部

技術開発調整官　佐藤　正之　氏

演題「東日本大震災からの教訓と今後の備え」

講師　（一社）東北地域づくり協会

地域事業部長　山内　芳朗氏

参加者／65名

平成26年８月19日

河川研修会

場　所／信濃川河川事務所管内

内　容／現地調査

柿川放水路排水樋門新設工事　堤防開削現場

講演会　河川堤防の築堤履歴について

講　師　長岡技術科学大学

環境建設系　大塚　悟氏

参加者／37名

平成26年８月19日

広報部会広報委員会打合せ

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度「親子で見学会」の開催について

平成26年８月19日

総括部会災害対策部会合同会議

場　所／北陸支部会議室

議　事／平成26年度防災訓練等について

平成26年８月20日

第10回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／富山市内

内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師　北陸地方整備局　企画部

技術調整管理官　高島　和夫　氏

演題「東日本大震災からの教訓と今後の備え」

講師　（一社）東北地域づくり協会

地域事業部長　山内　芳朗氏

参加者／104名

平成26年８月21日

第10回社会資本整備セミナー（共催）

場　所／金沢市内

内　容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」

講師　北陸地方整備局　企画部

技術調整管理官　高島　和夫　氏

演題「東日本大震災からの教訓と今後の備え」

講師　（一社）東北地域づくり協会

地域事業部長　山内　芳朗氏

参加者／113名

平成26年８月22日

平成26年度北陸防災連絡会議幹事会

場　所／新潟市内

出席者／高田運営委員長、青木総括部会長

平成26年８月24日

富山事務所社会貢献活動

富山市主催「ふるさと富山美化大作戦」参加

場　所／富山市　富山駅周辺

内　容／清掃活動

参加者／23名

平成26年８月24日

未来につなぐ7.13水害10周年シンポジウム（後援）

場　所／三条市内

内　容／パネル出展

平成26年８月25日

講師派遣

派遣先／新潟県土木部

派遣数／１名

内　容／橋梁Ⅲ（行政編）

平成26年８月27日

平成26年度第３回役員会

場　所／高岡市内

議　事／協会本部定例運営会議等報告　他

平成26年８月29日

平成26年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会

場　所／北陸地方整備局

出席者／佐藤建設環境委員長

平成26年９月１日

防災演習

場　所／北陸支部会議室

内　容／ＦＡＸ及びメールによる情報伝達訓練

参加者／総括部会、災害対策部会

平成26年９月１日

防災の日講演会（後援）

場　所／新潟市内

内　容／講演「災害に強い地域づくりに向けて」

講師　足立　敏之氏（前国土交通省　技監）

講演「水管理･国土保全に関する最近の話題」

講師　森北　佳昭氏

（前国土交通省　水管理・国土保全局長）

平成26年９月２日・３日

講師派遣

派遣先／北陸地方整備局

派遣数／１名

内　容／点検エキスパート（トンネル・土工構造物初級）研修

平成26年９月３日

講師派遣

派遣先／富山県土木部

派遣数／１名

内　容／平成26年度富山県土木部技術職員研修（道路）

平成26年９月４日・５日

講師派遣

派遣先／（一財）新潟県建設技術センター

派遣数／７名

内　容／道路設計

平成26年９月９日

契約のあり方講習会（協会本部主催）

場　所／新潟市内

内　容／「契約のあり方に関する課題」

講師　建設コンサルタンツ協会

契約のあの方専門委員会

委員　廣瀬　高喜氏

「土木設計契約上の法的問題」

講師　弁護士　大森　文彦氏

出席者／国９名、県17名、政令市２名、会員73名　計101名

平成26年９月12日

橋梁現場見学会

場　所／高田河川国道事務所管内

内　容／一般国道８号　海川高架橋　見学

参加者／23名

平成26年９月16日

平成26年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会

新潟県下越分科会・分会長会議

場　所／新潟国道事務所

出席者／建設環境委員　　若尾委員

平成26年９月17日

新潟地域委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／意見交換会等について

平成26年９月17日・18日

都市計画研修会

場　所／群馬県桐生市及び富岡市

内　容／・桐生市の都市計画、景観施策、桐生新町重要伝統的建造物保存地区における取組について

・富岡市の都市計画及び景観計画、まちづくりについて

参加者／16名

平成26年９月18日

新潟地域委員会

場　所／北陸支部会議室

議　事／意見交換会等について

平成26年９月18日

講師派遣

派遣先／（一財）新潟県建設技術センター

派遣数／５名

内　容／橋梁Ⅰ（下部工の設計・施工編）

平成26年９月18日

平成26年度第２回北陸地方整備局新技術活用評価会議

場　所／北陸地方整備局

出席者／涌井河川及び砂防委員長

平成26年９月19日

補強土壁工法及び防災･減災工法の技術講習会（協賛）

場　所／新潟市内

内　容／特別講演　「より合理的な補強土壁工法を目指して」

講　師　中央大学研究開発機構　教授

太田　秀樹氏

講　演　「新潟地震50周年について防災を考える」

講　師　長岡技術科学大学　教授

大塚　　悟氏

講　義　「アデムウオール工法の設計・施工マニュアルの概要」

ジオテキスタイル普及委員会委員

竜田　尚希氏

講　義　「ジオテキスタイルを用いた道路盛土の耐震強化工法の紹介」

アデムウオール協会　技術委員長

西本　俊晴氏

参加者／185名

平成26年９月19日

出前講座（大形小学校）

場　所／新潟市立大形小学校

内　容／環境等について

参加者／５年生172名

平成26年９月25日

建設技術報告会（実行委員会）

場　所／富山市内

内　容／基調講演

「北陸地方の塩害及びASRによる劣化事例から学ぶ社会インフラの長寿命化対策」

講師　金沢大学理工研究域

環境デザイン学系　教授　鳥居　和之　氏

技術報告　７テーマ　36技術

展示技術　29技術

参加者／450名

平成26年９月29日

講師派遣

派遣先／（一財）新潟県建設技術センター

派遣数／１名

内　容／橋梁Ⅱ（上部工の設計・施工編）

平成26年９月30日

平成26年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会

新潟県上越分科会・分会長会議

場　所／高田河川国道事務所

出席者／建設環境委員　　藤本委員

一般社団法人　建設コンサルタンツ協会北陸支部
会　員　名　簿

会社名	事業所名	〒　住所	電話番号 FAX 番号
朝日航洋㈱	北陸空情支社	950-0088　新潟市中央区万代 2-3-6 （新潟東京海上日動ビル 2 F）	025(249)1150 025(249)1155
旭調査設計㈱	本社	950-0908　新潟市中央区幸西 1-1-11	025(245)8345 025(245)8349
アジア航測㈱	新潟営業所	950-0087　新潟市中央区東大通 2-3-28 （パーク新潟東大通ビル）	025(243)3246 025(247)7969
㈱アルゴス	本社	944-0009　妙高市東陽町 1-1	0255(72)3448 0255(72)9426
アルスコンサルタンツ㈱	本社	921-8116　金沢市泉野出町 2-1-1	076(248)4004 076(248)4174
いであ㈱	北陸支店	950-0087　新潟市中央区東大通 2-5-1 カープ新潟ビル	025(241)0283 025(243)5650
㈱エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087　新潟市中央区東大通 2-1-20 （ステーションプラザ新潟ビル 807 号室）	025(256)8611 025(256)8612
エヌシーイー㈱	本社	950-0964　新潟市中央区網川原 1-4-11	025(285)8540 025(285)3531
大原技術㈱	本社	940-0856　長岡市美沢 3-275	0258(35)4511 0258(36)3254
応用地質㈱	新潟支店	950-0864　新潟市東区紫竹 7-27-35	025(274)5656 025(271)6765
㈱オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087　新潟市中央区東大通 2-3-26 （プレイス新潟 4 F）	025(244)7881 025(244)7387
開発技建㈱	本社	950-0914　新潟市中央区紫竹山 7-13-16	025(245)7131 025(245)7132
㈱開発技術コンサルタント	本社	951-8133　新潟市中央区川岸町 3-33-3	025(233)0204 025(233)6465
川崎地質㈱	北陸支店	950-0914　新潟市中央区紫竹山 5-7-5	025(241)6294 025(241)6226
基礎地盤コンサルタンツ㈱	北陸支店	950-0925　新潟市中央区弁天橋通 1-2-34	025(257)1888 025(257)1880
北建コンサル㈱	本社	933-0941　高岡市内免 3-3-6	0766(23)3666 0766(23)3987
㈱キタック	本社	950-0965　新潟市中央区新光町 10-2	025(281)1111 025(281)0002
㈱協和	本社	933-0838　高岡市北島 1406	0766(22)2100 0766(22)7602
㈱クリエイトセンター	本社	951-8133　新潟市中央区川岸町 2-8-1	025(232)7121 025(232)7130
㈱クレアリア	新潟営業所	950-0916　新潟市中央区米山 4-19-13 （ハイムオカザキ）	025(248)2205 025(248)2206
㈱計画情報研究所	本社	920-0025　金沢市駅西本町 2-10-6	076(223)5445 076(223)4144
㈱建成コンサルタント	本社	933-0014　高岡市野村 284-1	0766(25)6097 0766(25)5697

会社名	事業所名	〒 住所	電話番号 FAX 番号
建設技研コンサルタンツ㈱	本社	933-0007 高岡市角 602-1	0766(21)6126 0766(21)6192
㈱建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル７Ｆ)	025(285)6437 025(280)9750
㈱建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代 4-4-27 (新潟テレコムビル)	025(245)3883 025(241)9082
㈱建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台 9-9　202 号	025(250)8002 025(250)8004
㈱構造技研新潟	本社	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル８Ｆ)	025(282)3337 025(282)3323
国際航業㈱	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通 2-3-26 (プレイス新潟)	025(247)0318 025(241)4146
㈱国土開発センター	本社	921-8033 金沢市寺町 3-9-41	076(247)5080 076(247)5090
国土防災技術㈱	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井 1035-1	025(260)2245 025(260)7522
五大開発㈱	本社	921-8051 金沢市黒田 1-35	076(240)6588 076(240)6575
サンコーコンサルタント㈱	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上 4-4-15	025(260)3141 025(268)4950
㈱上智	本社	939-1351 砺波市千代 176-1	0763(33)2085 0763(33)2558
㈱新日本コンサルタント	本社	930-0142 富山市吉作 910-1	076(436)2111 076(436)3050
相互技術㈱	本社	950-0994 新潟市中央区上所 2-11-14	025(283)0150 025(283)0152
㈱大東設計コンサルタント	新潟支店	950-0086 新潟市中央区花園 2-1-16 (三和ビル)	025(246)1320 025(247)3740
大日本コンサルタント㈱	北陸支社	930-0175 富山市願海寺 633	076(436)7855 076(436)6030
㈱ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山 4-1-24	025(234)2110 025(234)2111
舘下コンサルタンツ㈱	本社	939-3553 富山市水橋的場 234	076(478)0090 076(478)1190
中央開発㈱	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南 3-1-21 (北陽ビル)	025(283)0211 025(283)0212
㈱中部コンサルタント	本社	933-0866 高岡市清水町 3-5-9	0766(21)4536 0766(22)4370
㈱長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町 6-1 (興和ビル６Ｆ)	025(288)0271 025(288)0273
㈱千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口 1-19-31	025(244)8445 025(249)4776
㈱東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通 1-2-23 (北陸ビル)	025(248)3870 025(248)3877
東京コンサルタンツ㈱	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口 1-1-12 (クラスターナインビル８Ｆ)	025(246)1827 025(246)7463
㈱東洋設計	本社	920-0016 金沢市諸江町中丁 214	076(263)6555 076(233)1224
ナチュラルコンサルタント㈱	本社	921-8066 金沢市矢木 2-147	076(246)1171 076(246)4489

会　　社　　名	事業所名	〒　住　所	電話番号 FAX 番号
㈱ナルサワコンサルタント	本　社	950-0964　新潟市中央区網川原 1-21-11	025(282)2070 025(284)7993
㈱日本海コンサルタント	本　社	921-8042　金沢市泉本町 2-126	076(243)8258 076(243)0887
日　本　工　営　㈱	新潟支店	950-0962　新潟市中央区出来島 1-11-28	025(280)1701 025(283)0898
㈱日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087　新潟市中央区東大通 2-5-8	025(243)0431 025(241)1806
㈱ニュージェック	北陸支店	950-0911　新潟市中央区笹口 2-10-1 （ＷＩＮ21　４Ｆ）	025(243)4471 025(243)4472
パシフィックコンサルタンツ㈱	北陸支社	950-0917　新潟市中央区天神 1-1 （プラーカ３　６Ｆ）	025(247)1341 025(246)1005
㈱パスコ	新潟支店	950-0916　新潟市中央区米山 3-1-63	025(243)0051 025(241)8654
㈱プラネット・コンサルタント	本　社	920-0353　金沢市赤土町ト 95-1	076(268)1206 076(268)1207
北電技術コンサルタント㈱	本　社	930-0858　富山市牛島町 13-15	076(432)9936 076(432)4280
北陸コンサルタント㈱	本　社	939-8213　富山市黒瀬 192	076(493)7717 076(493)7720
三井共同建設コンサルタント㈱	北陸事務所	950-0087　新潟市中央区東大通 2-5-8 （東大通野村ビル）	025(244)2503 025(244)2573
明治コンサルタント㈱	北陸支店	950-2002　新潟市西区青山 1-1-22	025(265)1122 025(265)1126
八千代エンジニヤリング㈱	北陸支店	950-0088　新潟市中央区万代 1-1-1 （朝日生命新潟ビル）	025(243)5454 025(243)5883
（一社）北陸地域づくり協会	本　部	950-0197　新潟市江南区亀田工業団地 2-3-4	025(381)1020 025(383)1205
（一財）新潟県建設技術センター	本　部	950-1101　新潟市西区山田 2522-18	025(267)4804 025(267)4854

各部会・委員会委員名簿

独占禁止法の遵守に関する特別部会			
部会長		寺本邦一	開発技建㈱
		新家久司	㈱国土開発センター
		吉田攻	大日本コンサルタント㈱
		小野塚眞一	㈱キタック
		齋藤真晴	開発技建㈱
		金子慶一	㈱国土開発センター
		大浦淳	大日本コンサルタント㈱
		西潟常夫	㈱キタック

対外活動部会			
部会長		寺本邦一	開発技建㈱
		新家久司	㈱国土開発センター
		吉田攻	大日本コンサルタント㈱
		小野塚眞一	㈱キタック
		大平則夫	エヌシーイー㈱
		矢田弘	㈱東京建設コンサルタント
		田中義明	大日本コンサルタント㈱
		長森孝司	㈱日本海コンサルタント
幹事		坂上悟	開発技建㈱
新潟地域委員	委員長	小野塚眞一	㈱キタック
	委員	阿部良満	エヌシーイー㈱
	委員	山岸守	開発技建㈱
	委員	上田茂樹	㈱クリエイトセンター
	委員	中俣孝	㈱構造技研新潟
	委員	舩谷喜代文	旭調査設計㈱
富山地域委員	委員長	吉田攻	大日本コンサルタント㈱
	委員	田中義明	大日本コンサルタント㈱
	委員	竹腰直治	北建コンサル㈱
	委員	吉田勉	㈱上智
	委員	大浦淳	大日本コンサルタント㈱
	委員	栄知之	北陸コンサルタント㈱
石川地域委員	委員長	新家久司	㈱国土開発センター
	委員	髙嶋智晴	㈱国土開発センター
	委員	長森孝司	㈱日本海コンサルタント

総括部会			
部会長		青木和之	エヌシーイー㈱
		佐藤浩	㈱開発技術コンサルタント
		大浦淳	大日本コンサルタント㈱
		浦正光	㈱日本海コンサルタント
		西潟常夫	㈱キタック

		間　瀬　義　昭	開発技建㈱
		高　野　一　博	大原技術㈱

技　術　部　会			
部　会　長		横　山　徹　成	開発技建㈱
道　路　委　員　会	委員長	渡　邊　雅　樹	開発技建㈱
	委　員	木　村　　浩	エヌシーイー㈱
	委　員	首　藤　直　樹	㈱クリエイトセンター
	委　員	平　岸　　純	㈱国土開発センター
	委　員	古　池　　豊	大日本コンサルタント㈱
	委　員	藤　本　勇　一	㈱東洋設計
	委　員	神　田　和　久	開発技建㈱
橋　梁　委　員　会	委員長	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
	委　員	近　藤　　治	開発技建㈱
	委　員	渋　木　　薫	エヌシーイー㈱
	委　員	大　竹　　滋	㈱キタック
	委　員	南　雲　　浩	㈱構造技研新潟
	委　員	笹　谷　輝　彦	㈱国土開発センター
	委　員	小　原　隆　一	㈱東洋設計
	委　員	寺　田　直　樹	㈱開発技術コンサルタント
河川及び砂防委員会	委員長	涌　井　正　樹	㈱キタック
	委　員	永　矢　貴　之	㈱建設技術研究所
	委　員	亀　田　　満	㈱国土開発センター
	委　員	佐　藤　裕　司	五大開発㈱
	委　員	岡　田　和　美	大日本コンサルタント㈱
	委　員	須　田　　玲	エヌシーイー㈱
	委　員	木　村　幸　雄	開発技建㈱
	委　員	小　柳　　徹	㈱キタック
	委　員	金　子　幸　生	相互技術㈱
トンネル委員会	委員長	桐　沢　芳　広	㈱オリエンタルコンサルタンツ
	委　員	今　度　充　之	東京コンサルタンツ㈱
	委　員	須　貝　　浩	エヌシーイー㈱
	委　員	麻　田　正　弘	アルスコンサルタンツ㈱
	委　員	平　野　吉　彦	㈱キタック
	委　員	雪　田　真　吾	サンコーコンサルタント㈱
	委　員	辻　本　勝　彦	㈱国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小　見　直　樹	エヌシーイー㈱
	委　員	佐　藤　吉　一	開発技建㈱
	委　員	荘　司　洋　文	㈱キタック
	委　員	新田川　貴　之	㈱国土開発センター
	委　員	酒　井　信　次	大日本コンサルタント㈱
	委　員	埒　　正　浩	㈱日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐　藤　　朗	開発技建㈱
	委　員	稲　葉　弘　之	アルスコンサルタンツ㈱
	委　員	若　尾　明　弘	エヌシーイー㈱
	委　員	高　田　弘　幸	大日本コンサルタント㈱

	委　員	西　　暢　人	㈱日本海コンサルタント
	委　員	藤　本　隆　則	㈱キタック
	委　員	平　野　博　範	㈱国土開発センター
品質向上委員会	委員長	真　嶋　利　寿	エヌシーイー㈱
	委　員	清　原　宏　二	開発技建㈱
	委　員	森　　将　恒	㈱キタック
	委　員	大　越　敏　行	大日本コンサルタント㈱
	委　員	若　林　　修	東京コンサルタンツ㈱
	委　員	野　村　尚　樹	㈱日本海コンサルタント
	委　員	山　森　茂　明	㈱クリエイトセンター
	委　員	高　橋　辰　夫	㈱開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋　浦　　慎	開発技建㈱
	委　員	内　山　　徹	エヌシーイー㈱
	委　員	島　　健	㈱キタック
	委　員	大　関　一　成	㈱クリエイトセンター
	委　員	湯　川　　幹	㈱国土開発センター
	委　員	野　入　英　明	大日本コンサルタント㈱

広報部会			
部会長		齋　藤　真　晴	開発技建㈱
広報委員会	委員長	佐々木　大　介	㈱ナルサワコンサルタント
	委　員	浜　辺　良　彦	相互技術㈱
	委　員	澤　田　伸　也	大日本コンサルタント㈱
	委　員	瀧　上　　彰	アルスコンサルタンツ㈱
	委　員	芳　野　夏　輔	㈱建設技術研究所
	委　員	新　川　行　男	㈱国土開発センター
	委　員	梶　原　　亘	パシフィックコンサルタンツ㈱
	委　員	大　蔵　欣　司	㈱建成コンサルタント
	委　員	川　本　勝　之	開発技建㈱
	委　員	今　野　　健	エヌシーイー㈱
	委　員	佐　藤　洋　子	㈱構造技研新潟
	委　員	中　島　亮　子	開発技建㈱
	委　員	佐　藤　　恵	相互技術㈱
会誌編集委員会	委員長	須　藤　勝　彦	㈱国土開発センター
	委　員	猪　俣　孝　之	大日本コンサルタント㈱
	委　員	齋　藤　浩　幸	㈱キタック
	委　員	熊　倉　孝　次	㈱クリエイトセンター

災害対策部会			
部会長		寺　本　邦　一	開発技建㈱
災害対策新潟現地本部	技術総括指揮者	髙　橋　邦　夫	開発技建㈱
	副責任者	木　村　幸　雄	開発技建㈱
災害対策富山現地本部	技術総括指揮者	渡　辺　正　三	大日本コンサルタント㈱
	副責任者	林　　達　夫	大日本コンサルタント㈱
災害対策石川現地本部	技術総括指揮者	笹　谷　輝　彦	㈱国土開発センター
	副責任者	西　川　幸　成	㈱国土開発センター

編集後記

少々前の話題になりますが、今年の第96回全国高校野球選手権大会は北陸勢が大躍進しました。星稜が石川県大会決勝で８点リードされた９回に９点をあげ劇的な逆転サヨナラ勝ちをするなど、今年の北陸勢は大会前から注目されていました。大会の結果は、日本文理、富山商、星稜、３県とも３回戦に進出。中でも日本文理はベスト４まで勝ち上がりました。

星稜は、１回戦５－４で静岡（静岡）に勝利、２回戦４－１で鹿屋中央（鹿児島）に勝利、３回戦１－５で八戸学院光星（青森）に敗退しました。３回戦の八戸学院光星戦は星稜高校が先制しましたが１－１で延長にもつれ込み10回に逆転されてしまいました。

富山商は、１回戦２－０で日大鶴ヶ丘（西東京）に勝利、２回戦３－１で関西（岡山）に勝利、３回戦５－６で日本文理に敗退しました。３回戦の日本文理戦はシーソーゲームでしたが、９回に逆転サヨナラ本塁打を打たれ、惜しくも41年ぶりのベスト８進出とはなりませんでした。

日本文理は、1回戦５－２で大分（大分）に勝利、２回戦３－２で東邦（愛知）に勝利、３回戦６－５で富山商に勝利、準々決勝５－１で聖光学園（福島）に勝利、準決勝０－５で三重（三重）に敗退しました。準決勝の三重戦は、５試合一人で投げ抜いてきた飯塚投手が最後力尽き５年ぶりの決勝進出とはなりませんでした。

３校の対戦校を見てみると、強豪校ひしめく関東・中部・九州勢にも勝利していますし、日本文理－富山商の対戦はどちらが勝利してもベスト８進出できたなど北陸勢が全国トップレベルの実力なのは間違いありません。今後、北陸から優勝校がでるのもそう遠くないように思える大会でした。

ガンバレ北陸勢‼

齋　藤　浩　幸

雪　の　音　Vol.122

発　　行　一般社団法人　建設コンサルタンツ協会
北陸支部

〒950－0965
新潟市中央区新光町６番地１
（興和ビル）
TEL(025)282－3370・FAX(025)282－3371

会誌編集委員会
委員長　須藤　勝彦
委　員　齋藤　浩幸　猪俣　孝之
熊倉　孝次

印　　刷　㈱第一印刷所

発行：一般社団法人建設コンサルタンツ協会北陸支部
〒950－0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル
TEL (025) 282－3370　FAX (025) 282－3371